

# 令和5年度第1回茅ヶ崎市市民活動推進委員会 会議録

議題	(1) 令和4年度実施市民活動推進補助事業実施報告
日時	令和5年6月24日(土) 9時00分から12時40分
場所	市役所本庁舎4階 会議室4・5
出席者氏名	大畑朋子 町田有紀 坂田美保子 船山福憲 雫石剛 原田晃樹 山田修嗣 事務局4名(市民自治推進課) 三浦課長、小西課長補佐、服部副主査、柿澤主任
欠席者	市川歩 菅野敦 紀伊智裕
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者数	27人(内オンライン4人)

○司会

皆さんこんにちは。

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

ただいまより令和4年度実施市民活動げんき基金補助事業実施報告会を開催いたします。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、本日の報告会の開会にあたりまして、佐藤光茅ヶ崎市長より一言ご挨拶申し上げます。

○市長

皆さまおはようございます。

早朝からお集まりをいただきまして誠にありがとうございます。

コロナ禍になってもう3年以上が経ちます。

私の一番の仕事としましては、市民の皆さまの命と健康を守る、これが第1でありました。

逆にそのことによって、様々な団体の皆さんの活動を止めなければいけなかったということには、率直に皆さまにお詫びをしたいと思います。

本当に申しわけございませんでした。

ただそういった中でも、昨年令和4年度は、皆さまが様々な工夫をしていただきまして、できないできないではなく、できることからやっていただいたことに本当に心から敬意を表します。

今日はその報告会ということでございますけれども、ぜひ各団体の活動を知っていただいて、お互いにいいところがあれば、それは吸収し合う、或いは一緒にコラボできるところがあれば、コラボする。団体の奥行きの高さというのを作っていただければありがたいと思っておりますし、この事業を設定するために、委員の皆さまにも本当にお骨をお折りいただきましてありがとうございます。

この団体の中には茅ヶ崎市のみならず、神奈川県からの表彰を受けた団体もごございます。

茅ヶ崎だけではとどまらず、もっともっと大きく羽ばたいていく、そんな補助制度にしていきたいと思っておりますし、この基金は市民の皆さま或いは企業版ふるさと納税等で成り立っているところもごございます。

大変重要な浄財をいただいている事業でございますので、これからも温かく見守っていただきたいと思います。どうぞ本日はよろしく願います。

○司会

恐縮でございますが、佐藤市長は次の公務のため、これを持ちまして退席とさせていただきます。

それでは続きまして、市民活動推進委員会の山田修嗣委員長よりご挨拶を申し上げますとともに各委員をご紹介します。

委員長よろしくお願いたします。

○山田委員長

おはようございます。山田と申します。

市民活動推進委員会を代表いたしまして一言、ご挨拶を申し上げたいと思います。

今日皆さんにこれから発表いただきます内容は、正式名称が市民活動げんき基金補助事業というものです。その補助金に基づく活動について今日この後、ご発表いただく予定です。

この事業は、正確に資料通り申し上げますと、市民活動を推進するための環境を整備し、市民活動の活性化を図ることにより、活力溢れる地域社会の実現を目指すこと。これが目的となっている事業です。

茅ヶ崎市では平成17年度からこの事業を実施しておりまして、総数で約180件の支援実態があるということです。

そうした中に位置付けられている皆さまの活動は、もちろん市の中で展開していただいて、さらに茅ヶ崎市がより良く暮らしやすくなるようにという様々な市民に向けてのサポートが行われてきているところだと思います。そのようなところと一緒に情報を共有しながら、私たち委員としても、その内容をいかに充実させるべきなのかといった点について、委員会の中での議論、情報に役立ててまいりたいと思います。

それから同時に市長の挨拶の中にもありました通り、このような市民活動をなさっている皆さんの中での共有情報として、さらに磨きをかけていくための内容として、ご活用いただくといった狙いもあります。

そういった会にできれば、すばらしいことではないかと思っております。

今日は令和4年度に市民活動げんき基金からの補助を受けた9団体の皆さまにお集まりいただき、事業の成果を報告いただきます。

ただ、令和5年度の申請の際にお目にかかったという団体の皆さんもいらっしゃいますし、全然知らない人というわけではないと思いますので、様々な意味で意見交換や、情報共有が活発になされることを期待して、私からの挨拶に代えさせていただきます。

それでは順番に委員会の委員を紹介します。

原田委員です。

副委員長を担当くださっております。

大畑委員です。

町田委員です。

坂田委員です。

船山委員です。

雫石委員です。

以上7名の委員で進めて参りたいと思います。

今、1つ空席がありますけれども、後程合流されれば8名で進めてまいりたいと思います。

よろしくお願ひ申し上げます。

#### ○司会

なお本日の報告会につきましては、Zoomのウェビナーという機能を使いまして後ろにありますカメラで配信を行っております。

もうすでに数名の方がご覧になっておりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、本日の報告会の流れについてご説明いたします。

配布しております冊子の1ページめくったところスケジュールをご覧ください。

これから12時半までの時間の中で、令和4年度に実施しました市民活動げんき基金補助事業のスタート支援1事業、ステップアップ支援8事業についてご報告をいただきます。

発表の時間配分についてご説明します。

まず、報告団体より10分以内で事業について説明をしていただきます。時間管理について申し上げますと、終了1分前に一度ベルを鳴らします。その後、予定時間の10分になりましたら、2度ベルを鳴らします。説明が終わりましたら、市民活動推進委員会の委員より質問やアドバイス等を行います。こちらについては、6分程度予定しております。説明中に2度ベルが鳴りましたら、途中であっても、速やかに説明を終了していただくようお願いいたします。思いのこもった事業を短時間でアピールしていただくのは大変なことかと思いますが、どうぞご協力いただきますようお願いいたします。

また本日の報告会の様子につきましては、撮影等をさせていただいて市ホームページ、広報紙等でご紹介させていただく場合がありますのでご了承ください。

最後になりますが、この補助金は市民活動げんき基金を原資として補助をしております。冊子の5ページから6ページにかけましてご寄附をいただいた皆さまを記載しております。

また、令和5年度実施事業につきましては、株式会社ゴルフダイジェスト・オンライン様のからの企業版ふるさと納税制度を活用して補助を実施しております。

令和5年度事業につきましては、実施事業を掲載した冊子が受付にありますので

もしよければご覧ください。

皆さまからのご寄付がなければいずれこの補助金はなくなってしまいます。

当会場にも募金箱を用意しておりますので、ご協力をお願いいたします。

それではこれから各事業の報告を行って参ります。

まず、多様性野菜活用の料理教室につきまして、多様性野菜活用支援協会様からご報告していただきます。よろしくをお願いいたします。

#### ○多様性野菜活用支援協会

昨年実施した事業に関して、スタート支援で実施したのはうちの団体だけなのですが、初年ということでかなりうまくいかなかった部分と、先ほど市長も仰ってましたが、6月までは会場が全く使えない状況でスタートができなかったということがありました。

今年度は、だいぶコロナも落ち着いて、今年度は新たにやれるかなという段階です。

スライドを進めさせていただいて、報告書の書面は皆さんすでにご承知いただいていると思うので、その辺は少し割愛する部分もありますが、開催するにあたって初年度ということで、認識の甘さがすごくあったということは反省材料として考えています。

まず場所の確保。これがどうしても料理教室という特殊な事業で、茅ヶ崎には素晴らしいうみかぜテラスという場所に調理室があります。

このメリットというのは、会場も市営球場のそばということで皆さん集まりやすい環境と、道具が全部そろっているというすごい大きなアドバンテージあります。

1から全部そろえるとかかなり大変なので、こちらがいいと判断しました。

高砂コミュニティセンターというもう一つ選択肢があるのですが、こちらは、非常に部屋が狭いのと暗い、道具も完璧にはないので、そういう意味でも、うみかぜテラス一本でということでした。

ただ、コロナ禍のために残念ながら6月まで使えず、7月以降も人数制限ということで、22年度は完全に制限下での開催という形でやりました。

当初6回を予定したのですがけれども、7月以降初めてスタートするという事になっています。

2番目の認識が少し甘かったのは、料理教室で使う食材の中で、当初予定の時には、鎌倉野菜さんは私の知り合い、三浦野菜は代表の堀江さんのお知り合いを通して仕入れするという事にしていました。

結果的に事業審査の時に、茅ヶ崎の農家はどのように使わないかと質問もいただいたので、これはトライしていたのです。

実際に土曜日の午前中市営球場の横で茅ヶ崎の農家の方が朝市やられているの

で、そこにトライしたのですけれど、なかなか馴染めない、繋がらないということがあって、うまくいかなかったというところがありました。

それで最終的に、鎌倉野菜さんが一番協力的だったので、そこを一本でやっていくという結果になります。

もう1つは、料理教室当日に使う道具、これは代表の堀江さんが詳しくて、怪我をした時の対応であるとか、また、調味料などのことを最初考えていなかった。

なので、この分の予算を取っていなかったというのは、開催するにあたって問題であったということ。

またその調味料などを保管しないといけないのですけれど、ダンボール2箱分くらいありまして、ずっと私の家で保管しまして、ただ、夏は当然温度が一定のところに置かなきゃいけないということもあったので、23年以降はその費用も考える必要があると思いました。

たまたまうみかぜテラスが場所を貸してくれるということもあったので、それを利用しながらやってもいいのではないかなと思っています。

場所の確保を簡単にご説明しましたが、うみかぜテラスが6月までできないということが一つと、借りるための手続きが煩雑でした。

そういう意味で場所の確保というのは、この事業にとって一番大事なポイントで、もう少しよく理解するべきでした。

またうみかぜテラスの登録は、単純に誰でもできるわけではないので、それまでの手続きが二段階ハードルありまして、それをまずやらなくてはならないことが、7月からのスタートだった。認定団体になれないと借りることができない。

なので、それも一つの大きなバーであったというのがあります。

次は、さっき言った食材の仕入れなのですけれども、茅ヶ崎市開催なので茅ヶ崎の農家からの仕入れを検討し、トライしたのは先ほど言った通り上手くできなかった。

今回、鎌倉と三浦の農家からの仕入れは、普段取引をしていたり、お世話になっているということで、そっちの対応というふうな形になりました。

もう一つ、3月の下旬に設定したのですけれど、この日が、端境期というのがありまして、農家には年2回端境期があって、全くとらない日があるそうなのです。

それにたまたまぶつかってしまいました。

直前に出せないという連絡がきたので、あらかじめ調べておくべきことだったのですがそれができてなかった点があります。

さっき言いましたが、事前に購入しておくスキームと、怪我をした時の対応、それから、これをどこにしまうのかということで、その3つをやっぴり最初からもっと検討すべきだったなと思っています。

その他、これまた3つくらいうまくできなかったことがあります。

この事業、結果的に2人でやったのです。

お手伝いしてくれる方を募集して1回説明会を行ったのですが、社会貢献事業という認識にならない人の方が多くて、そこで少し違うのだなということを感じました。

なので、最初から最後まで2人でやる形になって、当然2人にかかる負担が大きくなりますから、この辺すごく難しいなと思いました。

それから、食材だけの提供を検討してもらった方もいたのですが、本業があることで、なかなか時間調整をすることもできなかったということがあります。

もう一つ、説明会をしたときに感じたのは、社会貢献事業といえども、ある程度の収入を得るような仕組みを、やらないと皆さんやってくれないのだということもよくわかったので、社会貢献イコール無料という日本の発想と、欧米みたいに、無料ではない、チャリティーは無料ですけれど、社会貢献は有料ですから、その感覚の違いというのはすごく感じたわけです。

2022年度の反省を踏まえて、次は修正できるように、協力者を訴求するのですが、けれども、この事業に賛同してくれて、社会貢献だということを理解した上でやってくれる人、それがどのくらいがいいのかということも含めて、再検討しなくてはいけないのですが、まずは2人で進められるようにと思っています。

料理のレシピ。参加者へのプレゼントなどはこのようなやつも使ったという写真です。これは参加してくれた方に渡したレシピです。これもデザイナーの人をお願いして、持って帰っても捨てられるものではなくて、そのまま残って、実際自分たちでやる場合に、使ってもらえるように作ってみました。これも実際夏にできなかったのですが、子どもと親子で一緒に参加していただければいいと思ったので、これも合わせて作りました。

実際にやった時の写真ですが、報告書も入れてあるのですが、1月7日、ちょうど七草粥をテーマにして実施しました。

#### ○山田委員長

それでは委員より質問コメントをさせていただきたいと思います。

#### ○原田副委員長

参加者を募られたということですが、具体的にどういう条件で、社会貢献ということでやられたと思うのですが、例えば、社会貢献とはどういうものか、ボランティアな活動をするということで募集されたのに、お金を要求されたということですか。

#### ○多様性野菜活用支援協会

お金を要求されることはないのですけれど、説明会した後の反応というのが止まったのです。

なぜかと言えば、副業ではないという認識に立ってもらえなかった。

つまり、副業と思って説明会に来て、副業ではないという認識になった。

つまり、募集をかける段階でちゃんとその説明ができていなかったことがわかった。ですので、そこは少し反省すべき点になるなということ。

#### ○船山委員

地元農家さんの野菜を得ようということで、土日の球場に赴かれた、トライしたけれども、うまくいかなかったというのは具体的に何が上手くいかなかったのでしょうか。

#### ○多様性野菜活用支援協会

うまくいかなかったのは、朝市が土曜日ありますよね。

1軒の農家ではなくて、10軒くらい出していただいて、順番に挨拶しながら名刺交換したのですけれども、その後ご連絡いただけませんでした。そのあと車で回るわけにもいかず、2週連続でやったのですけれども、この人たちは少し無理だなと思いました。

彼らは彼らで野菜を使った料理教室を有料でやっていた。

そこと競合してしまうことがあるので、これ以上言うと相手に迷惑がかかると思いました。

やっている目的が違うのです。向こうは、いわゆる廃棄野菜、規格外野菜を使うのではなくて普通の野菜を使う。うちは規格外野菜を使うので。

もう一つ、規格外野菜というのは常に出るわけではないのですよね。これもすごく難しいのですよ。

そのへんの趣旨を理解してくれた鎌倉野菜さん、すごく大きな農家なのですが、いつもは出ないけれど、出たらばつと出るから、それは声かけてもらって、逆に言うと、開催日をあらかじめ言ったことによって、その日に合わせて、規格化野菜を収穫、朝してくれるのですよ。

すごい安くやっていただいたので、その辺の市場をまた茅ヶ崎農家さんにはこうやってもなかなか納得してもらえないという部分があったので、結果的には鎌倉野菜さんをお願いしたということになりました。

#### ○零石委員

茅ヶ崎の農家さんは1ヶ所にだけ確認したということですか。

茅ヶ崎は広いから、海の方ではなくても山の方でもどこでも農家さんいっぱいあ



と思うのですけれども。

○多様性野菜活用支援協会

市営球場に来ているのはみんな山側の人なのですよ。

実際来ているのは、車で皆さんお越しいただいて、矢畑とか中島とかあっちの方でやっている方が中心でした。

だんだん調べてくると、農業水産課の人にも1回相談したのですが、あそこに入っている農家と入っていない農家があって、それぞれ別々の団体になっていて、そこは非常に複雑な関係にあるみたいで、変につつくと後で面倒くさくなるとすごく感じたので、逆に言うと、代表の堀江さんと私の知り合いが農家をやっていたらその人に頼めばいいと。逆に思ったのです。

○坂田委員

発表を拝聴して、いろいろと反省の面がかなりあってご苦労したことが本当に実感として伝わってきました。

この事業は、様々な目的が一緒に合わさっているのですよね。

廃棄野菜を使うこととか、或いは料理教室を使って場を作るだとか、それからSDGsもあると思います。

複数の目的が絡み合っている事業ですので、やはりどう市民の皆さまにPRして理解していただくかというところが、すごく難しいなと感じました。

ですので、どういうところを訴えて共感してもらえるか、事業計画の中で段階を追ってプロデュースしていけるような計画づくりが、もしかしたら求められるのかなと思いましたので、ぜひ23年度も頑張っていたきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○多様性野菜活用支援協会

ありがとうございます。

本当に坂田委員のおっしゃる通りで、段階を追ってどうやっていったらいいか、今年、昨年の失敗を踏まえて、うまく焦らず、確実にやっていきたいと思っています。

○山田委員長

それでは時間となりましたので、質疑は以上になります。どうもありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

それでは続きまして、夏休み子ども向け SAP 体験会 2022 につきまして、特定非営利活動法人 SUPU スタンドアップパドルユニオン様から発表いただきます。

準備をお願いいたします。

それではよろしくをお願いいたします。

#### ○特定非営利活動法人 SUPU スタンドアップパドルボートユニオン

SUPU スタンドアップパドルボートユニオンの太田と申します。よろしくお願い致します。

昨年夏休み子ども向け SUP 体験会ということで、茅ヶ崎海岸のヘッドランドビーチの西側 T バーのところで、夏休み期間の 3 日間、子どもさん、市内の小中学生を対象に、スタンドアップパドルボード、サーフィンの長いもの、パドルを使って漕ぐもの体験会、合わせて、海で遊ぶ際の情報も、一緒に子どもたちと勉強しながら進めるというような体験会を実施いたしました。

体験会を実施するにあたって、チラシポスターを一昨年は、ある程度限られた地域にしか配布できなかったのですが、今年度は市内の小中学校、ほぼ全部に配布させていただいて、6 月初旬に告知して、かなりすぐにいっぱいになってしまったというようなイベントで、おかげさまで盛況でございました。

海のイベントになりますので、結構夏休みといえども、天候に左右されるスポーツになりますので、数日予備日も含めて、開催するといった形で、一部二部という形ですべて実施いたしました。

次のページいきますけれども、一昨年の反省点踏まえて集合時間、開始時間、お子様たちが早く集まって、なかなか開始しないといった情報も踏まえて、子どもたちとコミュニケーションを取ったり、海へ出やすい環境を作って、インストラクターを増やして、安全の部分について特に配慮しました。

またインストラクターの T シャツも、作らせていただいて、青い T シャツでインストラクターがわかりやすいというような工夫をしながら、子どもたちに体験をしてもらえるというようなイベントを作って参りました。

具体的に言いますと、7 月の夏休みの直前、11 日からお盆の前くらいまでに、1 日二部構成、午前中の 1 時間ずつくらい、一昨年は実は 2 時間くらい時間を取っていたのですが、子どもたちは意外に飽きてしまう部分もありまして、1 時間ずつくらいということでの二部構成、合計 6 回開催いたしました。

開催場所なのですけれども、ヘッドランドビーチの西側エリア。

俗に言う裏パークと言われているところなのですが、比較的それほど混んでなく、小学校 19 校中学校 5 校に広告を行ったので、かなり広範囲のお子様たちに参加していただけたと思っています。

それからインストラクターの数や参加費用に関しては、一昨年よりもインストラクターを増やしたという形なのですが、学生のボランティアの方々にも参加していただき、より子どもたちと親密に話せるインストラクターも増員したという形になります。

来年度以降とありますが今年度、実はまだ発表はしてないのですが、同じように、夏休み子どもサップ体験会ということで、いわゆる夏休みに入って、同じく3日間くらい、今年もやると予定しています。

実は問い合わせが結構ありまして、おかげさまでやっぱり海に行く、海で楽しむといったきっかけがスタンドアップパドルボードで、やってみたいというお子さんが結構いらっしゃるといのがこの二、三年の結果に繋がっていると思っています。

これらは写真になります。

もちろんライフジャケットをつけたり、リーシュコードをつけて、安全に、少なくともコードの近くに、インストラクターがいて、意外に子どもでも、1人でどんどんいっちゃう子どもさんいながらも、インストラクターがいないと水にさわることさえはばかれるお子さんもいらっしゃったりして、そのお子様に応じて、インストラクターが対応していくというような形でした。

先ほど申し上げた参加者のご報告なのですが、下は5歳、小学校に上がる前のお子さんから上は15歳中学生のお子さんもいらっしゃいました。

ほぼ市内のお子さまでしたが、一昨年と少し違うのは、この茅ヶ崎市内の地域別を見ていただくとわかるように、満遍なく、俗に言う海側も山側のお子さん達も結構来てくださいました。矢畑で11人というのが非常に多いな、という印象でした。

これが各小中学校にポスターを配った結果で、皆さんやっぱり海には興味があつて夏休みに、報告会の確認させていただいた会議でもお話しいただいたのですが、やっぱり海を使って野球の練習とか、いろいろ海というフィールドを使ったものというのをいろいろ盛んにされているようなのですが、なかなか海に入って何かをやるというのは、こういったものがないとなかなか難しいのではなかろうかということで、こういったことを開催すると、結構皆さん、興味を持って参加していただけたと思っています。

それから一昨年同様今回もアンケートをとりまして、参加費に対してとか、インストラクターの数とか、コメントをたくさんいただきました。

特筆すべきはインストラクターの数が一昨年は若干少ないのではないかという意見もあったのですが、ちょうど良いと、安心して見てられたという意見が100%でした。

子どもたちがものすごく楽しんでということとたくさんの感謝をいただき、メー

ルもたくさんいただきました。

また来年も参加したいですとか、一昨年から、続いて参加して下さったりとか、先ほど申し上げたように、今年、昨年、このようなことがあると知らなくて本当にありがたいといったコメントもいただきました。

海のイベントになりますので非常にリスクもあるのでありますが、最後のページには、こういう絵日記で、スタンドアップパドルボードに乗って、日記を書いて下さって、それをわざわざ送って下さって、大変我々もうれしく思いました。

引き続きこういったイベントを、続けていって、茅ヶ崎市の中では、もちろんご存知のようにサービスもすごく、有名ではありますがスタンドアップパドルボードに関しても、茅ヶ崎発祥ではなかろうかと言われている文化がありますので、今後、続けてやっていきたいと思っています。

ご報告以上になります。

#### ○司会

ありがとうございました。

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしくお願ひいたします。

#### ○山田委員長

委員からの質問、コメントがありましたらご発言お願ひいたします。

いかがでしょうか。

#### ○坂田委員

私は茅ヶ崎市民ではないのですが、非常にうらやましいなと思って報告を聞かせていただきました。

子どもたちの喜ぶ笑顔が本当に伝わってきて、素晴らしい事業だと思いました。

二つお伺いしたいのですが、今年インストラクターの数が十分だったということなのですが学生のボランティアさんはどのように募集したのかというところと、それから参加年齢が5歳から15歳までとすごく幅広いのですが、サポートの仕方は大分変わってくると思うのですが、その辺皆さんどうご苦労があったかというところを伺ってよろしいでしょうか。

#### ○SUPU

まず、学生ボランティアの方は、我々の団体に体育の授業の一環でスタンドアップパドルボードを習いに来ていただいている平塚の高校の学生の方々に来ていただいています。

ボランティアでいわゆる賃金は出ないのですが昼食の弁当を出したりとか、そういった形で自分たちも楽しみながら一緒にできたと思っています。

今回インストラクターで参加してくれた皆さんは、幼稚園の先生の免許を持っている方がいたりとか、日頃からそういうスポーツイベント等も含めてやられている方も来ていただいて、いわゆるお子さんに慣れている方も結構来ていただいて、半々くらいでしたかね。

そういった意味ではいわゆるスタンドアップパドルボードを日々楽しんでいる方だけではなく、そういったインストラクターの免許を持っていてかつ、そのお子さんに対しての指導というものも知っている方に集まっていた、そんな形になります。

○坂田委員

きっと参加者の皆さんはとても安心して参加されたのかと思います。  
ありがとうございました。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○零石委員

どうも大変興味深く、拝聴しました。

私今年度から参加していますので、その前の動き知らないものですから、少し質問させていただきますと、収支決算書で見ますと、参加費収入ということで1万ほど少ないですけれども、ほぼその通りの参加者が獲られたということとを考えていまして、当初予算額から決算額で見ますと、この謝礼金が約半分くらいになっていると。

これは、当初の予算としては1人当たりのコストがもっと高く設定したということなのでしょう。

○特定非営利活動法人 SUPU スタンドアップパドルボートユニオン

実は一昨年は、一般社団法人日本サップ指導者協会の方に来ていただいた時の講師料の単価が実は少し高かったのです。

今回ご協力いただいて1名当たり1万5000円ということで、二部構成で、いわゆる1回当たりの単価が少し安くなっているというのがすごく大きなところでは。

先ほどご紹介した学生インストラクターの部分も、皆さんも、いわゆるお弁当代だけで済んでいるところもありまして、決算額的に少なくなっているのと、あと参加費の部分で言いますと、1回天候で中止にした部分もありまして、若干少なくな

っているといったところで極力費用を、押さえながらも、一部負担はあっても、そこそこいわゆる予定通りではないですが、いいイベントにできたかと思っています。

#### ○大畑委員

いろいろ楽しそうなお報告いただきましてありがとうございます。

体験するにはすごく敷居を低くして、みんなに周知して広げていくというとても素晴らしい活動内容だと思いますけれども、今後事業を発展させていくことに関して、どういう手応え、どのようなお考えをお持ちでしょうか。

#### ○特定非営利活動法人 SUPU スタンドアップパドルボードユニオン

いわゆる海のイベント等になりますので、この時だけではなくって日々、定期的にやっていただきたいという思いも実はありまして、このスタンドアップパドルボードを競技として、レースをやったり、あとはいわゆるレギュラーのサーフィンと同じようにサーフィンの競技としてやられる方も結構いらっしゃいます。

ですので、我々は体験していただいてスタンドアップパドルボードを教えながら、競技としてもっと興味を持っていただいて発展していただければすごく嬉しいですし、やっぱり海のフィールドというのが茅ヶ崎独特になりますので、そこで、人が集まれば、市内も活性化できるだろうといった部分でこういった事業を通して我々も一緒に盛り上げていくというようなそんな感覚しております。

#### ○山田委員長

それでは時間になりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。

ありがとうございました。

#### ○司会

ありがとうございました。

続きまして、フリーペーパーの編集発行、ウェブサイトの更新と情報発信につきまして、BENIRINGO 様から報告していただきます。

ご準備をお願いいたします。

それではお願いいたします。

#### ○BENIRINGO

BENIRINGO の共同代表を務めております田中と申します。

私たちは今回フリーペーパーの編集発行とウェブサイトの更新と情報発信に活用させていただきました。

フリーペーパーの編集と発行についてなのですが、今回は茅ヶ崎市と寒川町の気候非常事態宣言の周知や、アルミ缶のリサイクルについて、日本の衣類の廃棄に対する古着の提案と茅ヶ崎の古着屋さんの紹介と、藍染工房の紹介をさせていただきました。

最後の藍染工房の紹介については、メンバーの高校生に実際に取材をしていただいて、記事も書いていただいて、この特集に関しては高校生と一緒に手がけています。

昨年の11月に6号、1500部発行させていただきました。前回の5号に関しては2500部発行させていただいたのですが、この減らした理由としては、私たちが実際に作ったフリーペーパーを置いてくださる方々に、思いをちゃんと伝えたいというところがあって、手渡しで渡すようにしています。

直接置いていただいたところとは、やはり繋がりを大切にしたいので、コミュニケーションを取っていくというのも大切にされていて、2500部のときは、1軒1軒回っているのですが、書くのに時間がかかってしまったというのもあり、2500部発行しなくてもいいかということで、1500部にさせていただきました。

今回は飲食店やお店、市役所、学校など計51ヶ所に置かせていただきます。

Webサイトについては、NPO法人セカンドワーク協会の方に依頼をして、一緒に作っていただいたのですが、これまでもホームページはあったのですが、お問い合わせの場所がなかったり、活動紹介がちゃんとできていなかったり、あまり活用ができていなかったりで、情報発信をするためにはもう少し、クオリティを上げていきたいなということで、今回ウェブサイトの改善もさせていただきました。

ウェブサイトは、今までフリーペーパーのPDFを貼っていて、読めるようにしていたのですが、やはりPDFだと文字が小さくて見えづらかったりしてしまうので、ウェブの記事としても発信することができました。

まだ掲載予定のものもあるのですが、水資源再生センターや空き家の再生をしている企業を取材しているので、その記事はこれから載せていく予定です。

事業の参加者人数としては、私ともう1人共同代表の阿部とで、5名となっておりますが、それからまた2名ほど増えました。高校生や大学生と一緒に活動したいということで、メンバーになってくださって、今は7名でやっております。

よかった点などについてですが、まずフリーペーパーについて、今まで置いていただけていなかったところにも置くことができたというので、配架先が増えたというのが1点よかったと思う点と、あとはその冊子を見て、何か一緒にできないかというのでお問い合わせをしてくださる方が増えました。

学校の先生からも訪問事業をしていただけないかという連絡をいただいたりして、冊子から実際に私たちの思いを言葉で発信する機会も増えました。

ウェブサイトの情報発信では、先ほども言ったのですが、問合せフォーム

がなかったり、自分たちの活動をちゃんと紹介できていなかったり、あとはフリーペーパーが見えづらかったりしていて、ウェブの冊子の方をウェブの記事に変えたというところで、以前よりセッション時間というページの滞在時間というのが、一般的なブログが1分30秒というのに比べて、2分26秒という長さで皆さんに興味を持っていただいていることがわかるデータを取ることができました。

アクセス数に関しましても、以前まで月20程度だったものが200程度まで増えるといった、明らかにウェブの効果があるなということがわかります。

あとはウェブサイトで、これまでの発行してきたフリーペーパーの記事も上げたのですけれども、2号を発行した時は100部の発行のみで、今回その記事をWebに上げたところ閲覧数が700回まで増えていたので、2号では決して届けることができなかつた7倍の方に見ていただくことができたということもわかります。

フリーペーパーの反省点は、内容をもう少し具体的に、改善策だったり、その提案を書くことができたならよかったと思っていることがありまして、気候非常事態宣言のページでは、宣言が出された後に具体的にどのような取り組みをしているのかというところまで書くことができたならよかったと私たちは思っています、衣類の廃棄の問題に対して、古着を選択することで、少しでも廃棄の削減になりますよというページがあるのですけれども、衣類の廃棄問題について、もう少し詳しく記載することができたならよかったなと思っているので次回はそこを改善していきたいなと思っています。

ウェブサイトの更新と情報発信に関しましては、秋口、10月に更新をしたのですけれども、ちょうどその時にフリーペーパーの発行だったり、イベントの開催の準備だったり、様々なことが重なってしまって、セカンドワーク協会さんに少し負担をかけてしまったというのが私たちの反省点です。

今後、私たちがどのようなことをしていきたいかというところに関しましては、今回、ウェブサイトの更新とフリーペーパーの発行というので、より多くの方に情報を周知できたという実感はあるのですけれども、やはり課題はまちにも、社会にもたくさんあり、私たち2人だけでは、BENIRINGOの活動だけでは、どうしても改善することができないので、その情報をより、本当にもう少し多くの方に届けるために、効率よくではないですが、情報の発信の種類を変えていきたいと思っているのですけれども、情報を発信するだけではなくて、その情報をキャッチしてくださった方が具体的に行動できるような場所の提供というのも行っていきたいと思っています。

月に1回、相模川の河口で河口クリーンという活動、清掃活動しているのですが、そちらの方では実際にごみに関心を持ってくださった方が、毎回20名ほど参加していただいているのですけれども、それだけではなくて、何か課題をテーマにして、それについて皆さんでディスカッションできるような場所を提供するイベン



トができたらいいなと考えています。

活動がボランティアベースになってしまうと、どうしても続けられない、課題改善にも繋がらないということで、私たちは今回資金もちゃんと自分たちで生んでいかないと、ということを実感しまして、これからは協賛を募っていきたいなと思っていて、市民の方々に情報発信プラス、企業の方々と一緒にコラボすることで、より情報発信も加速すると考えておりまして、今はその協賛集めの準備を進めています。

今回のフリーペーパーが発行できたということもあり、茅ヶ崎で秋から茅ヶ崎 FM というものが始まるということが、今日、きっと情報が解禁されていると思うのですが、そのラジオに関しても、そのフリーペーパーや WEB をきっかけで私たちにお問い合わせをいただいて、これからその番組を持たせていただくという予定にもなっておりまして、そこでさらに茅ヶ崎の方や、より多くの方に情報を届けることができると思っているので、これから継続して頑張っていきたいと思っております。

以上になります。

#### ○司会

それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしく願いいたします。

#### ○山田委員長

委員から質問、コメントがありましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。

それでは一つ質問をさせていただきます。皆さんの活動は以前から紙媒体、アナログメディアにこだわって、きちんと情報発信し、それが人と人との繋がり、つまり、手渡しという活動で、地域がうまく繋がっていくことが理念に含まれているということでした。

今回そうした活動を数年続けたことで、その紙の意味について改めてどのように重要であったか。デジタルメディアとの使い分けのお話もありましたので、少しご紹介いただければと思います。

#### ○BENIRINGO

ありがとうございます。

冊子の重要性、具体的にあったのが自治会の方々から初めて問い合わせをいただいて、今ごみの有料化が始まったということもあり、ごみの出し方、ごみについての意識を上げていきたいというご年配の方々からの問い合わせだったのですけれども、その時に私たちの冊子をまちで見てくださったことをきっかけに、自治会に配りたいということで、50部ほどを届けることができまして、それで喜びの連絡もい

ただけたので、まさに WEB に強い世代はもちろんいますけれども、紙媒体ならではの届けることができる世代というのは間違いなくいらっしゃるので、双方でやっていきたいと思っています。

○山田委員長

若者もアナログメディアを結構気にしていると思うのですが、そういう反応はありましたか。

○BENIRINGO

若者は、学校でやはり配らせていただくことがあるので、小難しい冊子といった見た目ではなく、お気軽にサクサク読めるような冊子なので、情報がまとまっていたりするので、それで見やすいという点で、関心を持ってくださった方も多くいました。

○山田委員長

ありがとうございます。委員の皆さんいかがでしょう。

○原田副委員長

2つあって、1つは少し失礼な質問かもしれませんが、紙をそもそも発行するというのは、当然資源を消費していくことになると思いますが、紙媒体を発行していくことに対してどう考えられているのか、ということと、それから社会企業として課題を解決するということで、以前プレゼンを伺ったのですが、社会企業というのは様々な定義があると思うのですが、ビジネスの手法で社会を解決するということだと、収入を先ほど協賛と言いましたけれど、自主財源をどう確保するか、どれだけ確保するかは大事だと思うのですが、協賛は、このフリーペーパーを発行するための資金と思ったのですが、それ以外に資金調達の考えはありますか。

○BENIRINGO

ありがとうございます。

まず冊子についてなのですが、私たちも作っていく上で、この紙を使っていいのかどうかということはもちろん悩み、発行部数も調整したりしているのですが、私たちが発行しない、紙を使わずに発信するよりは、紙を使って発信することで、より私たち以外の方々に、課題について関心を持っていただいて、分母を広げたい、私たちだけでは無理なところを、紙を使わせていただいて、仲間を増やすという認識でやっているのですが、たくさん本当に溢れるように印刷をするというのでは

なく、必要最低限でやっていくという気持ちでやっています。

2点目の協賛についてはフリーペーパーの協賛もそうなのですが、河口クリーンという掃除のイベントだったり、これからイベントのマルシェの企画とかも、昨年やらせていただいたりしているので、そういうイベントに対する協賛というところだったり、あとはプロダクトとかはまだ検討はしていませんけれども、何か提案があった際に、こちらでも提案して一緒に何か生み出すというところなど、いろいろ私たちが知識がないのでやりながらになってしまいますが、上手くいくかどうかはまだわからない部分ではあるのですが、試行錯誤しながら取り組んでいけたらと思っています。

○山田委員長

ありがとうございます。あと1分、時間がありますので、一つコメントや質問ができるかと思います。いかがでしょう。

○坂田委員

コメントになりますけれども、この冊子も拝見させていただいたのですが、新しいホームページもとてもすばらしいと思って、全部のページを見たのですが、BENIRINGOさんらしい本当に元気いっぱいのホームページに仕上がっていてとても素晴らしいなと思いました。

そういったことも含めてですけど、先ほどの発表の中でいろいろと団体を運営していく中での課題にしっかり着目しながら、段階を追って広げていきたいということをしっかり考えられて、活動されているなど、今日お話を聞いて、さらに応援したくなって参りました。まだまだ頑張ってくださいと思います。

○山田委員長

では時間となりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。

ありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

それではここで休憩をとらせていただきたいと思います。

再開は、10時15分からとさせていただきます。

皆さんよろしくお願ひいたします。

(休憩)

皆さまよろしいでしょうか。

続きまして、子どもを大切に育むための子どもの権利勉強会、地域交流会につきまして、ふらっと南湖様から報告していただきます。よろしくお願いいたします。

#### ○ふらっと南湖

ふらっと南湖の松本です。

げんき基金は、2021年度のスタート支援の時からご協力いただきまして、最初は主に南湖ハウスを立ち上げたばかりでしたので、ハウス内で勉強会とかをしていたのですが、昨年度2022年度は少しそこから外に出ようということで、主に勤労市民会館をお借りして活動をしました。

全6回シリーズで勉強会をしたのですが、内容としましては、社会的養護の体験者の方に主に登壇していただいて、ご自身のお話をしていただくということが多かったです。

最後の方に来ていただいたのは、私が里親としてフレンドホームというホームステイみたいな形で子どもたちと関わることをやってきたのですが、それを推進する、もうずっとやっていらっしゃる児童養護施設が、子どもの園といって堤の方にあるのですが、その先生にその有効性をお話いただきました。

実際にフレンドホームに行ってどう子どもたちがなっていたのか。出ていった後に幸せに関係を続けていて、相談相手になってくれるフレンドホームさんとの付き合いが続いているということをお話いただいた形です。

もう一つ、地域交流会というのは、南湖ハウスの中にお庭があるので、そこで作ったじゃがいもを収穫して、一緒に作って食べるとか、あとは里子達が来たときに、どのように過ごしているのかというのをお伝えしているような形です。

実際の様子を報告書に書いておりますが、写真の今映っているところは、第1回目の勉強会。私が今まで読んだ本などを展示して、手に持ってもらって読んでいただけたらいいなというような形で実施しました。

次の25日も、実際に当事者に来てもらって、7月2日は、私の里子も登壇してもらって、里親を知るの映画を見ていただいて、感想を共有しました。

8月7日のスリーフラッグスというのは、今ここにもチラシがあるので後でお渡ししたいのですが、この3人のうちの女性の方が実際に自分たちの仲間を撮影というか、ドキュメントにして、あとリアルボイスという形で、ここからすぐにこの映画にアクセスできるようオープンに見ていただけるような形で活動されて本当活発に情報発信されています。なので私もすごく応援しています。

10月12日については、市役所から、当事者の話を聞きたいということになりまして、こちらの3人の若者が、自分の体験のお話をしていただきました。

地域交流会は3月21日とか、じゃがいも収穫祭、チョークアートというのは、

南湖ハウスでやったイベントです。

先ほど申し上げましたけれども南部ハウスは部屋もそんなに広くないので、参加者は30名くらいだったのですが、22年度は230人くらい、あとSNS発信をしましたので、その人数は明確ではありませんが、そういう形で広げていきたいなと思っています。

子どもの権利への理解なのですが、今年度の一つ大事なものとしてお手元にあるこの冊子、これを作ったのが、今年度のもう一つ大きな大事な事業だったと思っています。

これは実際に茅ヶ崎のデザイナーさんとかライターさんに依頼もして、イラストレーターもそうなのですが、一緒に作っていただきました。

1枚目を見ていただくと、未来予想図というのがあって、これが私の理想とするところではありますが、南湖ハウスも一つの拠点として、地域の中にあって、様々な今孤立した状態にあったり、普通の家庭でも全然構わないのですが、様々な人がかかわり合うこと。少し上の世代のことを知ることが、自分のその先の人生にすごく役立つということも私も体験していますので、やっぱり交流することが大事だなんて思います。

今、空き家とかいろいろと地域にはいっぱい資源はあるのですけれどもそれが活用されていないという状態なので、拠点をうまく利用していけば、別に空き家ではなくても公民館も十分使えますし、あとはどうするかどうしたいか。コミュニティが大事だなんて思います。

この冊子の説明をさせていただくと、ここにも子どもの権利ということが書いてあります。

実際子どもの権利って言われると、はあ、みたいな人がまだまだ多いのですけれども、いっぱい子どもの権利が侵されていることが、実際は耳を済ませてみるとあって、例えば学校でも校則が異常に厳しかったりとか、または子どもに遊ぶ時間がないというのは、明らかに本当は子どもの権利を侵していることなのだよという少しした気づきから、子どもを大事にするという、私の今年度の目的、本当に皆さん大人が気づかなければ大人は変わらないので、その気づきをいかに多くしていくかなというのが、今後もやっていきたいことになります。

今回の報告にもありますが、南湖ハウスの活動として、こちらにどのような活動をしているかが書いてあります。

スタッフは、私と関わっている社会的養護の若者と、地域で知り合った方と、今そんなメンバーが主に核になって、活動しています。

今後私たちがやりたいことは、市民の方のニーズに沿った活動を柔軟にやっていきたいなと思っています。

私は昨年度、ファミリーサポートを1人の女の子、ずっとやってきたのですけれ

ども、今も小学校になっても関わっておりますが、やっぱりそういうお子さんお母さんのニーズ、そういう人は多分もっといるのだろうな、その後ろにある人達の声をどう行政に届けるかということも大事な私たちの活動と思っています。

以上です。

○司会

ありがとうございます。

それでは質疑応答に移ります山田委員長よろしく願いいたします。

○山田委員長

委員からの質問コメントありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

○原田副委員長

発表ありがとうございました。

まず週4回平均でやっていらして、しかも様々な地域で活動されて、関係を作ろうとされていらしてとても素晴らしいことだと思いました。

それからこちらのパンフレットの最初のところにあるように未来予想図ってこれもすごく、倫理感があって、こういうのができたらすごくいいなと私も思いました。

大田区で子ども食堂やってらっしゃる方と少しおつき合いがあるのですけれど、全く同じことを言っていたものですから、こういう取り組みはすごく大事だと改めて感じました。

今後の展望として、今お話いただきましたけれど、様々な施設とか、様々なニーズを酌み取ることはすごく大事だと思うのですが、おそらく今やっていることでもかなり大変だと思うのですが、それを地域に広げていくというのは相当エネルギーがいると思うのですが、何かお考えのこととか、こういう工夫していきたいみたいなことがあったらお聞かせいただければと思います。

○ふらっと南湖

エネルギーの話は、たまになんでそんなにエネルギーあるのかと言われるのですが、やっぱり何か吸収すると、吐き出したくなるというのが自分の中ではあって、実はこの1ヶ月、西欧に旅行に行ってきたのですよ。

イギリス、フランス、イタリア、スペインに行ってきたのですが、お年寄りが元気なのですよ。日本だと、若者が犯罪を犯したり、そういう事件があったり、自殺が多かったりというのがありますが、本当にこういうのも関係していて、社会的養護を出た子が結構その中には多いのではないかなって私は予想もしていました、要は希望がないわけですよ。

だけど、お年寄りが元気に動いていたり、施設に入っていないでもっとバリバリ歩き回っている。そういう姿を見たら、若者たちも元気になるのではないかな、私は少なくともそのお年寄りから元気をもらえましたので、こういう生き方があるのだという目標なり、モデルが身近にあるってことがすごく生きる上で大事なのではないかなというのを感じました。答えになっているかわからないのですが、やっぱりしてもらったことを返したい。私はすごく様々な良い環境で愛されてきたから、それを返したい、誰かに返したいなという気持ちで今活動しています。

○原田副委員長

ありがとうございました。

例えばそのニーズを把握するときに、地域包括の方とか地元の様々な方とか、関わりを持っていくということを具体的に考えてはいらっしゃいますか。

○ふらっと南湖

地域包括のれんげさんは近いわけなのですけれど。そこにいるメンバーの人のやる気にも関わるのかなというのが正直なところです。

今やっているのはファミリーサポートで知り合った方、要はニーズがある方たちと丁寧に関わることを心がけています。

もうそれしかないかなという、目の前にいる人をとにかくサポートすることが私にできることかなって思っています。

○山田委員長

続いて、いかがでしょうか。

○船山委員

先ほど、行政にどうその活動のことを届けていくかということがこれから大事なことだというお話があったと思うのですが、私もこの活動を事業化していくためには、やっぱり行政との連携は大事だと思うのですが、具体的にどういったところが連携する必要があるかとか、今現時点での課題点というのをどう感じていらっしゃいますか。

○ふらっと南湖

行政とも、第5回の時に担当の方と少し話し合っ、今後も話し合いを続けていきたいと言ったのですが、なかなかそのあとが続かなくなっています。そういうところがどう手がかかりでいったらいいのかというのがあったのですが、茅ヶ崎には3つ児童養護施設があるのですよ。

一つは、私が関わっている子どもの園は横浜市の管轄で、そこの方とは上手く行くのに何でほかがうまくいかないかというと、そっちは県の管轄なのですよ。

この問題は県の管轄なので、市と県のはざまにあるわけなのですよ。

だからそこが実は問題で、県と市がもっと連絡取り合って、実際にやるのは市なのだから、そこら辺の問題を、一緒に考えていってくれないと、課題は多分課題のままだと思います。

特にその残った2つの児童養護施設は本当に閉鎖的です。正直言って。

もう少し市民と繋がるために、フレンドホームをすべての子どもにつけてあげることが、その後の子どものまさに自殺防止にも繋がっていくだろうし、不安、犯罪も低下させることにもなるのではないかなって思うので、本当にこれは大人の問題だと思いますので、一緒に考えていただきたいと思っています。

○山田委員長

ありがとうございました。

それでは時間ですので質疑応答は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

続きまして、鶴嶺中学の学習支援開始の感染防止対策とパワフル大作戦につきまして、特定非営利活動法人こども応援丸様から報告していただきます。

よろしく願いいたします。

○特定非営利活動法人こども応援丸

NPO 法人こども応援丸の森と申します。どうぞよろしく願いいたします。

簡単に私どもの活動を紹介させていただきたいと思うのですが、市内の各中学校とともに行う中学生への学習支援ということで、特徴としては中学校と一緒にやっていくというところかと思えます。

今、毎月、各中学校さんから、生徒さんに対して学習会の案内を配っていただいて、学習会を下に書いてある通り、月曜日から金曜まで、週5回、平日毎日学習会をどこかでやっているという状況です。

今回、げんき基金補助事業の申請をさせていただきましたのが、この水曜日に行っている鶴嶺中学校の学習会が今年の9月からスタートしたのですが、このスタートに際して、必要となった、コロナ禍での開催ということになったので感染対策のものだったりの購入、それから鶴嶺中が結構、学校の規模が大きいものですから、相当数の子どもが集まるのではないかとということが予想されたのですか



ら、学習ボランティアの方を増やしていかななくちゃいけないということで、募集するためのチラシを作らせていただいたのと、あとホームページを新たにさせていただいたというような形で活用させていただきました。

今回このげんき基金補助事業の申請に至るまでの沿革ということですが、はじめ活動が始まったのが2016年の11月、南湖公民館で西浜中学校の学習会を始めたのが最初です。

これにはあるきっかけがあって、たまたま学校と一緒にの学習会が始められたということ、会が始まってすぐに、協働推進事業に提案をさせていただいて、この活動を他の学校の方にも広げていきたいということでそれが無事採択されまして、翌年の2017年の7月に中島中学校の学習会が始まりました。

事情があって、翌年の3月で終了してしまったのですが、協働推進事業の2年目で2018年の10月から、香川公民館での学習会、鶴が台中学の学習会が始まりました。

2020年、コロナがありまして、結局この年は1年間全く学習会が開けないという状況になりましたが、5月からZoomを使ったオンライン学習会をスタートしました。これは現在もそのまま続けているという状況です。

2021年4月、協働推進事業2年間の協働推進事業が終わった後に、学校教育指導課の委託事業ということで、引き続き行政と一緒にこの活動をやらせていただいていたのですが、そんな中、梅田中学校の学習会をスタートしました。

本当は、その前の年2020年の4月から始める予定だったので、コロナでできなくなってしまったので1年ずれたという形になりました。

2020年の3月に委託事業が3年間で終了しまして、活動としては引き続き、3校、西浜と鶴が台、梅田の学習会それから本来の学習会をそのまま継続して続けていたということでございます。

昨年9月から鶴嶺公民館での学習会を開始しました。

コロナ禍でも、学習会を開催していくにあたっては、それまで委託事業でやっておりましたので、そちらからいただいていた資金でそういったコロナ対策用のグッズなどをそろえられたのですが、2020年で委託料が終了してしまったものから、鶴嶺中学校の学習会を始めるにあたっては、今回このげんき基金補助事業を活用させていただく形になりました。

これは学習会の様子ですが、左が始まった当初の様子で、予想していたよりは、大分少なめだったので、大体10人前後の子どもたちが来まして、学習ボランティアの方たちに来ていただいて、子どもたちの学習のお手伝いをしていただいているのですが、右側が今年の2月です。倍くらいに子どもたちの数が増えまして、20人くらいという形です。その後春以降も大体20人くらい。やっている中では、鶴嶺中が一番生徒の数が多いものから、やはりここが一番

来る子どもたちの数も多い形になっています。

あと、学習ボランティアの募集のチラシを作りまして、市役所や図書館とか、各公民館、コミセン等に配布させていただきました。

このチラシは今年の春大学を卒業した社会人になった子で、うちの理事になっていただいている子がいまして、その子が作ってくれたチラシなのですけれども、最近ちらほらこちらからのボランティアの応募が始まったかなという状況です。

それから、ホームページも新たにしまして、そちらからもちらほらボランティアの方がくるようになったという感じでございます。

課題としましては、特に鶴嶺中の学習会をやっているのは鶴嶺公民館ということで、なかなか行きにくい場所にあるものですから、なかなかボランティアさんの数が増えていかないと、子どもたちの数はどんどん増えてくるのですけれども、ボランティアさんの数が全然追いつかない感じになっていますので、これを増やしていかなくちゃいけないなというところであります。

今後の展開としましては、さらに学習会をする学校を増やしていきたいという思いはあるのですけれども、なかなかまだ自分たちの体力がそこまで今の段階では少し難しいというところで、とりあえず今のこの4校での学習会を継続していきながら、次の展開を模索しながら進めていこうと思っております。

以上です。

#### ○司会

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしくお願ひいたします。

#### ○山田委員長

委員からの質問やコメントがありましたらご発言をお願いいたします。

#### ○零石委員

大変すばらしい取り組みだと思います。学習指導を行いまして、成績が上昇するのが最終的にはいいと思うのですけれども、受講している生徒さんとか、先生の声でこういう声を聞いているよということがあれば少し教えていただきたいです。

#### ○特定非営利活動法人こども応援丸

例えば、学校ではなかなか授業中に顔が上がっていなかったお子さんが学習会に来るようになってから、だんだん学校の授業中でも顔が上がってくるだとかというのは、学校の先生方から聞いたことがあります。

○山田委員長

続いていかがでしょう。

○原田副委員長

こういう学習支援をされている中で、例えば、少し気になる、勉強ができるできないということ以前に、少し服装などが気になる子を見かけることがあるのかということと、それからそういうことに対して、もしあったとしたら何かフォローをされているかどうかというところで教えていただけますでしょうか。

○特定非営利活動法人こども応援丸

あまり具体的にそういう気になるようなケースは思い当たらないのですが、学校と一緒にやっているのでは何か気になるようなことがあれば、学校に連絡を取ったり、学校の先生方も学習会を見に来てくれたりもしますので、そういったところで、情報の共有などはしていければと思っています。

○町田委員

発表ありがとうございました。

とても素晴らしい活動で応援したいと思っております。

今、毎日学校ごとに集まって、勉強会を開催されているということですが、例えば2、3校集まってやったりすれば、他の学校の方も一緒にできるので、広げられるのではと思うのですが、今学校ごとにされている理由はありますか。

○特定非営利活動法人こども応援丸

理由と申しますか、もともと始まりがそうだったのでその流れで来ているというところがありますので、今後例えば学校を増やしていこうとしたときに、もう現在、とにかく毎日やっている状態なので、なかなか、例えば1日に2ヶ所でやるとか、3ヶ所でやるというのは、現実的に難しい。だから、もしこの先学校を増やしていくとすれば、学校の垣根をなくしていくような形にしていけないと多分増やしていけない、その辺のやり方を少し模索していこうと考えているところです。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○坂田委員

ホームページを今回作成したということで補助金を使われているのですが、アクセス数はどのような変化があったか教えていただけますか。

○特定非営利活動法人こども応援丸

すみません。手持ちの資料ではわかりません。

○坂田委員

非常にわかりやすいホームページで、活動報告も丁寧に書かれていて、更新作業もきっと大変なのだろうと思いながら、拝見をさせていただきました。

もう一つ、今後の展望として広げていきたい。でも、ボランティアの皆さんを集めなければいけないというその狭間で非常にご苦労されているとされていて私が住んでいます平塚でも、学習支援の活動がすごく盛んなのですが、その方々が一様に言うのは、あまり大きな夢を追いすぎると、団体が活動しにくくなるということです。やはり運営委員会の方でいつも話し合っていることは、ここまでのところではできるけれども、これ以上のことをやると潰れる感じがあるので、まずここをやっていこうと、毎月学習支援ボランティアさんと役員の会議をしているとのこと。やはり継続的に活動するということが非常に大事だと思います。

今の状況ですと、できれば地域の民生委員さんですとか、児童委員さんですとか、あと地区社協さん、そういった方々と繋がって、さらに学校との連携を強めていくと、少し心配のあるお子さんについても、応援丸さんの方で何とかするというのではなく、連携した先でサポートができるような繋がりができていくといいのかと思いました。ぜひまた頑張ってくださいと思います。

○山田委員長

今のコメントについてリプライがありましたらお願いします。

○特定非営利活動法人こども応援丸

今おっしゃられましたように、継続する、長く続けていくことがまず第1だと思っていて、学校からもすごくそういったプレッシャーではないですけど、思いは伝わってきていて、あまり無理をせずに、とにかく今やっていることを続けていくということを大事にしていこうと思っています。

ありがとうございます。

○山田委員長

それでは時間となりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

それでは続きまして、命の教室(仮) in わんにゃんマルシェにつきまして、わんにゃんマルシェ実行委員会から報告をしていただきます。

準備をお願いいたします。

よろしくをお願いいたします。

#### ○わんにゃんマルシェ実行委員会

それでは、令和4年度げんき基金事業報告、いのちの教室(仮) in わんにゃんマルシェの事業報告をいたします、わんにゃんマルシェ実行委員会川上です。

同じく実行委員会、阿部と申します。よろしくをお願いいたします。

私たちわんにゃんマルシェは、動物愛護の啓発活動と、捨てられた命を救うために活動している動物保護団体さんのためのチャリティーイベントを年に1回開催しております。

私たちの活動の根底にある思いは、多くの方に保護犬保護猫の存在を知ってもらい、動物愛護に関心を持ってもらうことです。

でも、もっと根本のところ、そもそもなぜ保護犬保護猫がいるのか、なぜ捨てられる命がなくなるのか。それをもっとたくさんの人に考えてもらいたい。動物を飼うということをもっと真剣に向き合ってもらいたい。そんな思いから、今年度の事業として、いのちの教室の動画を作成いたしました。

動画制作は、市内の動画制作会社、ハッピーフィルムさんをお願いしました。

ハッピーフィルムさんは、ドックトレーナーの資格もお持ちでご自身も保護犬を飼っていらして、私たちの活動にも賛同していただき、今回の動画撮影、編集も格安の料金で引き受けていただきました。

年度の前半で平塚にある神奈川県動物愛護センターさん、寒川町役場さん、市内各動物保護団体さんの協力のもと、動画の撮影とインタビューなどをさせていただきました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございます。

本来ならば、ここでその動画を皆さまにご披露して見ていただきたいところではありますが、15分を超える超大作なもので時間の問題もあって、上映は難しいということなので、動画の中の画像を貼ってありますのでそれを見ていただきながら、説明させていただきます。

前半部分は、神奈川県動物愛護センターにて、どのように犬や猫が保護されて、そしてそこでどのように暮らしているかなどをセンターの職員さんに案内してもらいながら紹介しています。

その日たまたまいらしていたセンターの見学の方のインタビューの様子なども撮影させていただきました。

後半は寒川町で実際に開催されているねこの里親探しのための譲渡会の様子と、

あとは里親希望の方のインタビュー。譲渡までの流れ等を簡単にご紹介しています。

また、市内の動物愛護団体さんの代表さんにインタビューを受けていただいて、保護団体さんが普段どのように活動しているのか、保護犬保護猫をどのように保護しているのかとか、あとはその保護した犬とか猫への思い、また飼い主さんへの思いなどを語っていただいています。

こちらの動画は、わんにゃんマルシェの YouTube チャンネルを開設しまして、そちらで誰でも見られるようにしてあります。

今日配布させていただきましたこちらのチラシ。こちらに QR コードを載せてありますので、皆さんお時間のある時にそちらから YouTube チャンネルの方に飛んでいただいて、見ていただけたらと思います。

またホームページとかフェイスブックページ、インスタグラムなどの QR コードも載せてありますので、そちらもぜひご覧になってみてください。私たちの活動の様子をそちらの方で詳しくご案内しております。

また SNS なども、いいねとか、フォローとかしていただけると、スタッフ一同大変喜びますので、よろしく願いいたします。

さて、そうしてでき上がった動画を、今年度はまず 9 月 29 日に開催された鶴嶺高校のボランティア塾で発表させていただきました。

何と 1 年生 128 名もの生徒さんが参加してくれました。45 分の授業の中で、15 分間の動画視聴、保護団体さんの話、そして生徒さんたちとの質疑応答の時間を設けさせてもらって、活発に質問やご意見をいただくことができました。

後日、参加した生徒さんからの感想アンケートもたくさんいただいたので、ほんの少しばかりですが、ご紹介したいと思います。

保護犬保護猫の里親探しの活動の存在は知っていたが、具体的なことは知らないことばかりだったので、素晴らしいと思った。

日本中から殺処分がなくなればいい。

保護犬保護猫に関心が湧いた。とても考えさせられることが多く、動物を飼うことをしっかりわかって欲しいと思った。

ペットショップを全否定してしまうのは違うと思った。飼い主の意識の問題では。

ペットを買いたい人がしっかり勉強して理解すべき、ペットショップにも説明の義務を。

犬や猫だけでなく、生き物はすべて同じ命であり、そのすべてが大事なものと再認識できた。

たくさんのご意見やご感想は、私たちのこれからの活動にも大変ためになるものばかりでした。

そして、11月6日には、第一カッターきいろ公園でチャリティーイベント、第10回わんにゃんマルシェを例年通り開催させていただきました。

今年度は参加保護団体10団体、キッチンカーと物販を合わせて24店舗の出店とにぎやかに開催することができました。会場の様子を少しですがご紹介します。

昨年同様、会場の一部を囲って譲渡会会場とし、こちらは小学生以上の皆さんにお1人100円の入場料をいただきました。

コロナ対策が昨年度よりも大分楽になったこともあり、今年はそれほど行列もできずにスムーズに譲渡会会場にご入場いただけたのではないかと考えております。

キッチンカーや物販のブースはフリーで、どなたでも楽しんでいただけるようにして、多くの方に足を運んでもらいました。

会場内では、犬のしつけ教室や飼い主さんのためのマナー教室を開催。また、毎年ご協力いただくわんにゃんミュージックの皆さんのすてきな音楽で盛り上げていただきました。

今回せっかくすばらしい動画を制作したので、イベントでも上映したいと思い、中央公園の休憩所を時間を限って使わせていただいて、動画の上映会を開催しました。

休憩所の限られた空間でモニターも少し小さかったので、1度に多くの人に見てもらうことはできなかったのですが、休憩がてら見に来てくれた方も多く、よかったですと思います。

イベント会場全体で啓発のためのパンフレットなども配布させていただきました。

今年度のイベント来場者は、譲渡会会場だけで842名。会場全体スタッフ含め、参加者さんは1100名近くになったかと思います。

譲渡会で、トライアルに結びついた動物の数は、犬が8匹、猫が1匹でした。

今年の3月には、茅ヶ崎のサポセンさんのこどたんプラス2023のサイトの中でも動画を紹介していただきました。

3月10日の会場でも、動画を上映いただき、ご来場の方が足を止めてみてくださる姿もありました。

最後に、報告書にも記載させていただいたのですが、大きな反省点は、運営スタッフの様々な事情で、思うように活動ができなかったことです。

いのちの教室の動画上映をもっと様々な場所で開催する予定でしたが、それがかなわず、引き続き次の年への課題となりました。少ない運営スタッフでやりくりしているため、運営のフォーマットづくりの必要性を痛感しました。

私たちの活動は、多くの人に命の重さを考えてもらうこと。そのためには、少しずつでも継続していくことがとても大事だと思っています。それには、自分たちができること、できる範囲で無理なく、これからも、動物愛護の啓発活動を続けてい

けたらと考えております。

ご清聴ありがとうございました。

#### ○司会

それでは質疑応答に移ります。

山田委員長よろしくお願ひいたします。

#### ○山田委員長

では、委員からの質問コメントお願ひいたします。

いかがでしょうか。

今回、譲渡会の展開、それから啓発では、映像資料のご準備ということで、その両面から活動を予定し、うまく展開ができたという報告だったと思います。

その点で、譲渡会は、譲渡が何件成立したとか、そのような形で見えますけれども、映像についての評価はいかがでしょうか。視聴者の感想もご紹介くださいましたので、情報蓄積なさっていると思います。こうした情報を広げていく意味ですとか、団体としての活用の仕方について展望も見えたと思います。今後の展望について、このように繋がっていけばいいというところがありましたら教えていただけますでしょうか。

#### ○わんにゃんマルシェ実行委員会

今回動画を作ろうと思ったのは、やはりコロナでイベントがどうなるかわからないというところがすごくあって、SNS だったりホームページだったりとかで発信できることはないかというところの模索から、動画を作ってみようかという話になりました。

今回、本当にすばらしい動画を作っていただいて、それを上映させていただいて、本来でしたら、もっとたくさんの会場で上映会をやる予定だったのですが、それがなかなか今年度はすべてはできなかつたのですが、ただ今のところ、昨年度の時点で、茅ヶ崎の養護学校さんや、あと学童保育の教室さんからとか、上映会をやってくれないかというお話もあつたり、あとは団体さんから、動画を使っているかみたいなお問い合わせがあつたりしているので、動画を作った意味としては、次に繋がるきっかけになったとは思っています。

今年はそれをもっと上手に活用して、発信していけたらと思っております。

#### ○山田委員長

まさにそこが聞きたかったところです。ツールができてよかったのではなくて、そのツールを実際の皆さんの活動の中にどのように組み込んで、落とし込んでいくの



かというところが、大変重要だと拝見して感じました。その辺りがきちんと展望されていることはとても素晴らしいと思いました。

他にはいかがでしょうか。

○坂田委員

2つお伺いしたいことがございます。

収支決算書の方なのですが、返納4万4000円とあります。

その分は使わなかったということで返還されたと思うのですが、返還をされた理由を教えていただきたいということと。

それから、いわゆる運営スタッフの問題が非常に大変なのかなと思っております。大きなイベント等を作るためには、ノウハウをどう蓄積して、誰がやってもできるようなフォーマットを作っていくことがすごく大事で、どこの団体も人手不足、担い手不足で、誰でもができるような、そして関わる人が楽しい、楽しいと思ってもらうような仕組みを今後作っていくことが非常に課題と思っていましたので、その辺についても何かお考えがあれば伺いたいと思います。

○わんにゃんマルシェ実行委員会

収支に関しては、最初に寄付に回すという部分で、出展料を半額で、計画書に載せていたのですが、計算して少し多いとなって返還させていただきました。

今後のフォーマット整備に関してはまだ具体的にというのは、なかなか決まりかねてはおりますが、実際、運営委員会で動いているが、大体5人くらい。そうすると1人抜けるとやっぱり、これどうなっているみたいなのがある中で、それを誰でも見られるようにクラウドで共有したり、今までのイベントで培ってきたマニュアルみたいなのは大分できてきたので、それを誰でもつくれるようにするとか、そういう実務的なところの少し効率化みたいなのを図っていったらなと思っています。

あとはもう少しスタッフが欲しいですし、今年度、令和5年度はげんき基金補助事業に申請はしなかった。実務的なところで大変というのもあったので。そうするとやっぱり運営資金のこともいろいろ考えなければいけないので、それも令和5年度の課題になっていくと思っています。

○坂田委員

ありがとうございます。

多分皆さん聞きたいところではないかなと思ったのは、どうやってスタッフを確保し、実務をきちっとやるか。団体の運営は実際には実務よりも現場の方が楽しいわけで、でも実務をきちんとやっていかないとなかなか現場がうまく回らないと、

そのループに多分皆さんはまっているのではないかなと。私自身もそうなのですけれど。本当に忙しい中大変だと思うのですけれども、実務に費やす時間を少し皆さままで調整しながら、誰でも参加できるような仕組みを作っていただけたら嬉しいと思います。ぜひ頑張ってくださいたいです。

またそのスキームができれば皆さんにお知らせいただけると嬉しいと思います。

○山田委員長

それでは時間となりましたので以上とさせていただきます。

ありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

ここで休憩をとらせていただきまして 11 時 20 分から再開させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(休憩)

それでは皆さまよろしいでしょうか。

続きまして、スローコミュニケーションプロジェクトにつきまして、一般社団法人 4Hearts 様から報告していただきます。

それではお願いいたします。

○一般社団法人 4Hearts

一般社団法人 4Hearts の代表理事をしております那須と申します。よろしくお願いいたします。

私は生まれつき全く耳が聞こえていないので、オンラインでもリアルでも音声認識と、あと手話通訳を活用しながら理解しております。よろしくお願いいたします。

今年度のげんき基金補助事業の予算の大半は、スローコミュニケーションプロジェクトのウェブサイトの制作に活用させていただきました。

4Hearts は今年で 4 期目になります。そして、3 年間、本補助をいただいております。今年もいただいております。

小冊子制作でもらっているのですけれども、4 年間活動発信と、それから情報保障というところで、かなり予算をいただいているということになります。

今まで 3 年間は啓発活動に力を入れてきました。根拠データの収集や神奈川大学さんとの共同研究など、ちゃんとしたデータを収集し、それを使って、ワークショップを開発し、PDCA をまわして、実際にやってみて改善してきたというのが、今

までの流れです。

現状を言いますと、今はボランティアからソーシャルビジネスへ発展させるための過渡期となっております。

大阪の企業からもお声がけをいただきまして新規事業立ち上げと一緒に考えていこうということになっています。

ですので、組織として人を増やしていこうということで、先日は、アメリカで分析マンをしていて、現在人事考査をされている方が1名、それから20代の広報担当が1名、先日4Heartsに入っていました。

なので8人体制、それから社会人のプロボノが8名おまして16名で今動いております。

今年の3月に、活動が評価されまして神奈川県からボランティア活動奨励賞を受賞させていただきました。そういったことで、どんどんこれからも4Heartsとしては茅ヶ崎市から全国へ活動、発信してきます。世界も目指しております。

1年間活動をしてきたのですけれども、例えば、昨年8月から11月くらいまでは、茅ヶ崎の南湖の商業施設ランチで実証実験をやりました。音声認識を様々な店舗に置いたりとか、何でこれをやったかという、どういう社会サービスの現場においてこういった音声認識が使えるのかというのを、将来的にはコンサルをしていきたいと考えております。

そして選挙の時にも、コミュニケーションボードを試作し、そのためのラミネートの費用をいただきました。

それから9月には、茅ヶ崎市立図書館で、茅ヶ崎市と共催で大型のイベントをやりました。

見えない、聞こえない話せないを体験するようなイベント。この活動内容をこれから説明します。

みみここカフェという、対話のイベント、当事者、聴覚障がい者だけではなく、様々な方々が、どういう気持ちなのかを言葉にするための対話のイベントを偶数月に開催してきます。

また、この実証実験もやります。月に1回、さっき言いましたワークショップを開催し、ヘッドホンで聞こえにくい体験をしていただく。これもプロのサウンドデザインさんに特殊なノイズをつくっていただきまして、完全に聞こえにくいような状況を再現しております。

聴覚障がいは体験できない障がいと言われているので、それにより近づけて、体験していただいています。

また、図書館のイベントも多くの方々に参加していただきました。小学校2年生から6年生くらいまで参加していただいたのですが、見えない、聞こえない、話せない。

実際にマスクやヘッドホンで、体験しながら、できないできないではなく、できること、役割を持たせて、共通の本を探しに行くという体験を実際にどう感じたのかということを書き出していただき、最終的には茅ヶ崎を、図書館をもっとみんなが使いやすくするにはどうしたらいいかアイデアソンをやりました。

後日お話いただいたのですけれど、参加した親御さんが、子どもがものすごく変わったと、積極的に周りを助けるようになったという話をいただきました。

ランチも、実証実験をやった時に意識調査もやっておりまして、実際に音声認識があったらどうなのか、店舗に置いてあったらその印象がどう変わるのかアンケートをとったり、コミュニケーションボードも実際に置いたりとかもしました。

美容院でコンサルティングを実施しまして、聞こえない人が起きている間に補聴器を外すシーンはプールかお風呂か美容院で、美容院の中で利用者さんとコミュニケーションを取りたい、その時に音声認識を活用しながら、積極的に利用者さんに、サービスのことだったり、様々なお話ができるようになった。話が伝わった以上に、その鏡の向こうにも別のお客様が座っている。だからお客様同士でまたコミュニティが広がったと。

言いたいことが伝わった以上に、当事者がコミュニティに出て行けるといいうところがあるのだなということがお互いにわかってきたということがありました。

音声認識の開発の様々な機能がありまして、現在1社ほど、代理店契約を結ばせていただいております。

もう1社が今、契約の交渉中というところになりますが、音声認識と一口に言っても、どの現場でどの音声認識がうまく使えるかは結構バラバラなので、そこを私たちがアドバイスできると考えています。

直近は茅ヶ崎市役所で新人研修を実施させていただきました。見えない聴こえない話せないをブロックを組み立てるといいう形で発展させました。これは最終的に企業研修に発展させていき、さらにコンサルティングにと考えております。

これをやろうとしているのが、体験を通して無意識の思い込みに気づいていただく、想像力とか、もっとうだったのかも、ああだったのかな、じゃあどうしようかというような感じで、その転換力を築いていただくためにも、越境コミュニケーションの人材を育成する。そういう研修での体験をベースに作っていています。

それらを含めて、ウェブサイトの方に今、掲載をしております。

その後、茅ヶ崎市で茅ヶ崎館を舞台に撮影をしました。

プロの俳優さん1名と、それからエキストラの方にも来ていただいて、他の様々な当事者の方々、見えない人もいますし、難病で少し見えにくい聞こえにくい方もいますし、ろう者の方もいるし、様々な方がその場に参加して、動画を支援していただきました。

4Hearts が将来的に目指していきたいというところが、キーステーションを作り

たいと思っています。

それは、音声認識とか、スマートグラスとかそういったものを活用しながら、聴覚障がい者が接客をやりたいという気持ちが少しあるので、そこを考えながら、アルバイトとして働けるところを作っていきたいなど。もっとテクノロジーを活用した社会モデルの提案をしていけるような場所を作りたいと思っています。

それらを通して、企業のスポンサー料で運営していきたいので、その情報コミュニケーションのバリアに取り組んでいることが企業価値になっていく、CSRとして発信していけるような、そんな世界感をつくっていきたいと思っています。

以上です。

○司会

それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしくお願いたします。

○山田委員長

では委員から質問、コメントがありましたらお願いたします。

○原田副委員長

とても興味深く、拝聴しました。

幾つかお伺いしたいのですが、1点目、運営スタッフが8人と伺ったのですけれど、常時関わっているスタッフという理解でよろしいのでしょうか。

○一般社団法人 4Hearts

私と津金の2人がフルコミットでして、他の方は皆さん本業があって、一部関わってくださっているという形です。

○原田副委員長

わかりました。2点目なのですが、ビジネスモデルとして、今後、ボランティアではなくて、事業として展開されていくというお話でしたけれど、その事業としての主な柱、ビジネスモデルとしては、コンサルティングをする業務と、それから実証実験などをして、代理店契約をして、マージンを取るというその二つを目指したいということよろしいでしょうか。

○一般社団法人 4Hearts

はい。コンサルは合っています。様々なサービス業に対してのコンサルティング。

プラスして、あともう一つは企業の研修。それをもっと発展させられると思って

いて、例えば幹部研修ですとか、あとはホスピタリティの研修だったりとか様々なことができるかなと思っています。

あと企業のブランディングに参画していくということもできると思います。

○原田副委員長

大体どれくらいの期間でやっていこうと思っていますか。

○一般社団法人 4Hearts

実は今年神奈川県助成金を申請しようと思っています、それで3年間は一応みま

す。  
特に2024年に合理的配慮が民間で義務化されるということで、合理的配慮という言葉すらも知らない方々もすごく多いので、その啓発活動を、来年度は広域実証も兼ねながらやっていく。それから2025年にはキーステーションの設置、2026年にインクルーシブなファシリテーターの養成というところにまで発展させていけたらいいなと思っています。企業研修に関してはもう営業を始めています。

○原田副委員長

とても興味深いと思うのですが、そういう活動をする先には、助成金に頼らずに、完全に自分たちの収益で運営していきたいという展望ですか。

○一般社団法人 4Hearts

自分は社会起業塾にいたのですが、億単位で動いているNPOさんでも助成金は億単位とっていたりするんですね。

なので、助成金がゼロになる団体って多分ないらしいのですよ。

なので、一応社会貢献団体であることはずれてないので、そこはしっかりといただきたいと考えています。

○原田副委員長

最後に、動画を作成されたと思うのですが、具体的に今年度どう活用していきたいと思っていますか。

○一般社団法人 4Hearts

図書館の動画に関しては市役所の1階で、障がい福祉課がブースを構えるときに流していただけることになりました。

ウェブサイトの方では、例えばコンサルを実施したり、良好な事例が出てきたという時には、WEBの方に様々な事例集を載せていくような感じにしていきたいと思

っているので、動画も頻繁に見ていただけるのではないかと思います。

#### ○山田委員長

私からも一つ質問です。こうした取り組みが数年間続けられていることは、本当に素敵なことだとも思っています。

その時に、個人的に感じているのは、那須さんのアイデアの起こり方というのが、非常に多面的で魅力的な部分が大変大きいということです。とりわけこの令和4年度の活動の中で、那須さんがどういうところで感動したか、それによってスローコミュニケーションの理念がこのように広がったか、さらに良くなりそうな実感が持てたかなど、活動上のエピソードを一つでもいいので教えていただければと思います。

#### ○一般社団法人 4Hearts

先ほどの美容院でコンサルティングさせていただいたところなのですが、当事者の方、中途失聴の方だったのですけれど、その方に実際に来ていただいて、実際にコミュニケーションボードを使ったり音声認識を体験してもらったところ、同じお金を払っていて私すごく損していたのねっておっしゃっていたのです。

それだけではなく、様々な、ドライヤーに関するこだわりだったり、ヘアケアだったりとかそういったことを美容師さんとしてももっと伝えられたし、そういうこだわりを自分が持っていたのだから改めてわかったりとか、あとはお店の中がコミュニティになって欲しいという思いがあったそうなのですが、その中途失聴の方も入ってくれて、結局音声認識を置くということは単に対策をとっただけかもしれないけれども、それ以上にその人たちが入ってくれたということがすごい大きな価値で、例えば合理的配慮を知らない場合、手話通訳とか、音声認識とか情報保障とかそういったことがないと、私たちって社会に出て行けない、セミナーとかあっても、情報保障がないと諦めるということもあるので、美容室の中で、実はコミュニティができたというのが一つ大きなターニングポイントでした。

#### ○山田委員長

そういったコミュニケーションが、人との繋がりになっていったというところが、改めて教えていただいてよくわかりました。ありがとうございました。

では時間となりましたので、以上とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

#### ○司会

それでは続きまして、心の詰まりを取ろう怒りを知るアンカーマネージメント講

座につきまして、マザーアース茅ヶ崎様より報告させていただきます。

ご準備お願いいたします。

ではお願いします。

#### ○マザーアース茅ヶ崎

マザーアース茅ヶ崎が行いました事業の報告をさせていただきます。

四つの報告をさせていただきます。

一つ目は、なぜこの事業を、二つ目がその方法。そして三つ目が成果、学びと反省点。四つめが今後について。

まず一つ目。アンガーマネジメント講座の事業報告。なぜこの事業を。

世の中には、非常に怒りとか批判とかが蔓延していると私たちはいつも感じていました。なので、誰もが持つ怒りの感情、それは年代とか性別を超えたところにありまして、そのメカニズムを知り、それをコントロールすることを覚えるということで、あらゆる場面で怒りが連鎖していくことを止めていきたい。そんな思いでスタートしました。幸福な人生を送るために大切な、良い人間関係を築くことを目指す事業としてスタートさせていただきました。

二つ目、方法について。方法は、日本アンガーマネジメント協会のメソッドを使用して、約2時間のセミナーということで、4、5人のグループに分かれて、一部はグループで自己紹介、そして講義という流れで実施しました。

そして2部は、グループの発表をできる限り多くして、全員が話せるように、自分たちが参加している意識を持っていただけますように、話すことを多めに取るということをいたしました。

この中で、すごく面白かったのは、割と話したくてしょうがないという方たちがたくさん参加されているということが、やっていくうちにわかってまいりました。

この成果とか、学びの点をこれからお話ししたいのですが、成果としては、幅広い年代の方が参加されました。

30代の若いお母様方、子どもたちにどうしても怒ってしまう、というような悩みを持っている方とか、高齢者では80歳くらいの男性もいらっしゃいました。

結構、各講義に、3人とか、必ず男性が入ってきているということが非常に面白いと思っておりました。

そして、男性が思いの外、怒りというものに対して非常に興味を持っている、自分が持つ怒りがどこから来て、なんでなのだろうというようなことを常々思って考えていらっしゃる方が、意外と多いということがよくわかりました。

そしてもっと意外だったのが、このコントロールの仕方、やり方とか、怒りがなぜ起こるかというようなことがわかっていくと、すごく素直に試してみたいと言ってくる男性が、もしかしたら女性より素直に感じて、反応していただけたとい



うことがあって、非常に意外な気がいたしました。

この事業からの気づき、怒ったことを後悔している人がかなり多い。ここに書いてあるように、ほぼ全員が感じていることというのは、こういう内容になります。

時間がないので一つ一つは説明いたしません、要するに心理的安全性の確保の重要さというのは、今後、高齢化社会、高齢者が様々な団体とか社会的な活動に参加していく中で、お互いを非常に認め合い、心理的安全性の確保された中での会議とか、話し合いが行われることというのは重要なことだと私は考えております。

アンガーマネジメントを勉強させていただいたことは非常に大きな収穫だと思っております。

そして、後期はそれを生かして、女性防災会議につなげていくという形をとらせていただいております。

反省点としまして、毎月15日という、日にちを指定してしまったために、その15日の曜日がまちまちになって、皆さんローテーションで何曜日の何時から、お稽古ごととかいろいろあります。そういうことを完璧に私たち無視してしまったので、集客に非常に困ってしまったということがあって、これは第何週の何曜日とか、そう決めるべきだということが非常に大きな認識でした。

それと、周知活動にかなりの時間、お金がかかるということも一つありました。

ここら辺が反省点で、学ぶことが非常に多かった事業内容だと考えております。

そして、人との関係性を抜きに社会というものは成り立たないと考えております。

なので、心理的安全性の確保。つまり、相手を認めるというようなことをベースにして、すべての機会、場所において、それを中心に持ってやっていきたいと考えております。

特に今までずっと防災をやってきたマザーアースとしましては、自然災害が荒ぶる今、これから女性たちに活躍していただかないと困る。その時に男性たちの理解と、男性だから女性だからということではない心理的安全性を確保された会議を持っていきたいと考えております。

以上です。

○司会

それでは質疑に移ります山田委員長お願いいたします。

○山田委員長

それでは、委員からの質問コメントありましたらお願いいたします。

○船山委員

1点お聞きしたいのですけれども、このアンガーマネジメントで得られた理解を、防災につなげていくというお話で。避難所運営などに特に生かしていくと書いてらっしゃるのですけれども。もう少し具体的に、避難所運営の際の、どのような場面でアンガーマネジメントが生かされると想定などされてらっしゃいますか。

○マザーアース茅ヶ崎

防災には限らないのですが、様々な組織の物事を決めるポジションに女性がいない。自主防災組織においても女性が物事を決められるポジションにいないというところがありまして、常に下働きのような形になってしまっている。

なので、そういうところにもっと女性を起用していく。特に避難所という心のケアも必要だし、きめ細やかなものが必要な場合、避難所だけではなく、様々な場面に女性たちの感性とかそういうものをしっかりと生かしていくような事業になっていけばいいと思っております。だから防災だけには限っていないと思います。

○山田委員長

続いて、いかがでしょうか。

○坂田委員

発表ありがとうございました。

今回補助金を使ってビデオカメラを1台購入されていたと思います。

この報告書の中には講座の様子を撮影しましたとなっているのですけれども、撮影したものはまだ公開はされてないですか。

○マザーアース茅ヶ崎

編集するのにお金がかかっている、まだできてないです。

○坂田委員

これから公開をしていくということであれば、市民活動を皆さんに知っていただくために、動画はすごく重要なツールだと思うのですが、あまり長いと皆さん飽きて観なくなってしまうので、できれば1分くらいで、本当に講座の様子をささっと動画で流していただいて、その中に必要な目的をスライドでちりばめていくと非常に見やすい動画になるので、できればそういったところを作っていくと、もっと活動が皆さんに広がっていくのと思いましたので、次の展開でぜひ期待をしたいと思います。

○マザーアース茅ヶ崎

ありがとうございます。すごい参考になります。

○山田委員長

続いて、いかがでしょうか。

では私から一つ伺います。

この1年間の活動を通して、今ご説明にありました通り、アンガーマネジメントという手法が、世の中に広く役に立つというのを、さらに実感をされたことが大変よくわかりました。

その時に、マネジメントという言葉は、手段として伝える点が前提となるのですが、同時に、皆さんが、マネジメントの蓄積をこれからどのように使って、生かしていくのかが試されると思います。

そこが問題になってくると思います。その1例として、先に質問が出ましたが、防災への展開の可能性があると云う具合に、着実に繋がったのだと思います。

その点について、もう少し詳しく教えていただきたいのです。例えば、防災では、意思決定の現場にもっとしかるべき人が配置されるべきだとか、それから人々の関係づくりなので、そこに安心できる状態を作っておきたいなどの展開があると思います。そして、むしろそれ以外のところに実際にどのように役立つ可能性があるか、皆さんの活動の今後に対して、活用できそうな振り返りがあれば教えていただければと思います。

○マザーアース茅ヶ崎

組織の中で活かすことは重要なことなのですが、それとまた別に、様々な人間と人間の関係の中で、やはり相手をきちっと認めて、そして何かがあって自分が怒る、怒ってしまったとき、怒りの感情を持ったときになぜ自分が怒りの感情を持つ、持ったのか、そこをちゃんと自分が知っているというだけで、その関係性が非常にスムーズになっていく。

それは親子関係であれ、ご主人と奥さんでもそうだと、すべての人間関係がスムーズにいくようになればいいなと考えていて、怒りって強い方から下の方に流れていくものなのです。なので、それをどこかで怒りの連鎖を止めていきたいという方向をずっと考えています。

○山田委員長

団体の理念をさらに拡充する点が、1年間を通してかなり見られたということですね。ありがとうございます。

では時間とりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。

ありがとうございました。

## ○司会

続きまして、赤ちゃん和妈妈のためのコンサート、こどもから大人まで楽しめるコンサートにつきまして、湘南 Liebe 様から報告させていただきます。

ご準備をお願いいたします。

それではお願いいたします。

## ○湘南 Liebe

よろしくをお願いいたします。

赤ちゃん和妈妈のためのコンサートの事業報告をさせていただきます。

ここに書かれてはいないのですけれども、副題として、子どもから大人まで楽しめるコンサートということで、今までのコンサートで回収しましたアンケートから、ママだけの表示ではない方がよいではないでしょうかというご意見がありましたので、参加者の中にはパパやおばあちゃんなどの参加がとて増えましたので、副題として、子どもから大人まで楽しめるコンサートと補足いたしました。

このコンサートの目標ですけれども、赤ちゃんと育児に関わる方に向けて、2022年7月30日、12月24日、2023年3月6日に開催いたしました。お子様と一緒に出かける場所の提供と、育児に関わる方に心の栄養を与え、育児に前向きに取り組めることを目標にしています。

このコンサートは生の音楽演奏にプラス助産師さんとの相談会となっているのですけれども、この生演奏の音楽が人間の脳に与える効果ということで、欠かせないと考えました。

発生する脳波の一つ  $\alpha$  波ということで、 $\alpha$  波が脳内に発生すると、気持ちが落ち着きリラックスした状態になるそうです。

$\alpha$  波とは、心身がリラックスした状態になったときに、人間の脳から出る脳波の一つです。音楽が聴覚に働きかける手段として、 $\alpha$  波を出すための代表的な方法とされています。

小さい時期から音楽を聞くと、様々な刺激を得て脳の反応が早まります。

このような刺激が子どもたちの脳の活性化に寄与していると考えまして生音楽の演奏をしております。

今までやりましたコンサートの反響ですけれども、コロナ禍で3年間活動を休止していました。

しかし、2022年からコンサートを再開いたしまして、このことを今までの参加していただいた皆さまにメールで告知いたしましたところ、リピーターの方から待っていましたという声をたくさんいただきました。

私たちも感動しまして、やっぱりやるべきですねと思ひまして、昨年3回、コン

サート活動をしました。

この活動休止していた時期に生まれました第2子とか第3子のお子様と来場してくれた保護者の方がいらっしゃいました。

子どもと一緒に出かける場所、楽しめる場所が少ない現状がコロナ禍でより一層狭められて、赤ちゃんとママの孤立化に拍車がかかってしまったのではないかなと感じました。

同じ年頃の赤ちゃんとのお会いや、子どもと一緒に出かける場所が少ないという声がやはり非常に上がりました。子ども同士が出会うことで、興味を示して、親も成長の過程を共有することができる場所が提供できたのではないかと思っております。

コロナ禍でのコンサートの工夫ですけれども、感染防止対策はもちろんでしたけれども、チケットの事前精算をお願いすることが定着いたしました。

支払いも最近ではPayPay払いとか、銀行振り込みでお支払いいただいたために、入場もとてもスムーズに行うことができました。

助産師さんとの相談会ですけれども、これは7月3日に行いました。

助産師さんが地域で活動されていますので、顔見知りであったりすることで、親しみやすくお話をしたり、相談をしたりして、皆さん楽しんでいました。パパも増えて参りましたので、パパも気楽にお話ができる雰囲気をつくれたらいいのかなと思っておりました。

悩みは、子育ての悩みとか、自分に時間が取れないストレス、また、離乳食がパターン化してしまう、お子様との生活を悩んでいるお母様が見受けられました。

これはアンケートの資料です。このコンサートはどこで知りましたかというのは、やはりチラシ、そして友達からの口コミが多かったと思います。SNSも行っているのですけれども、こちらは他の団体さん、やはり赤ちゃんとイベントをやっている団体さんとかからメールをいただいたりしまして、宣伝していいですかなどの声掛けがあったので、どうぞどうぞということで、宣伝していただきました。

また来場者のお住まいの地域も調べたのですけれども、茅ヶ崎がもちろん多いですし、あと近隣の藤沢市でも1回赤ちゃんとママのコンサートをやったことがありますので、そこからのママがまだ少し続いているのかなということでした。

あと12月のコンサートでは、小田原市とか横浜市の方もいらっしゃってくださいましたので、どのように告知がいったのか私も不思議でしたけれども、でもとてもいいことだと思いました。

そして年代はやはり30代が多く、アンケート調査なのですが様々なことをいただきながら、一つ、このアンケートを書くのが、お子様を抱えながら書くのが大変という声がありましたので、ネットから後日アンケート調査はしてもらえませんかというご意見がありましたので、今年の3月最後のコンサートで、その方式を採用

してやってみたのですけれども、実際回収率が悪くて、たったの4名ほどしか戻ってくる事ができず、アンケートの意味がないと思ったので、やはり次からはその場で書いていただこうかと思っております。

今後の赤ちゃん和妈妈のためのコンサートですけれども、やはり1年に2回から3回は継続して行っていきたいと思っております。

内容は、赤ちゃんが喜びそうな内容は同じ内容でも継続していく。そして、その年に流行った新しい曲などは、取り上げていきたいと思っております。

助産師さんとの相談会もやはり助産師さんがいてくれるだけで会場の方が安心しているようなので、ぜひこれもそのまま相談会は設けて、その相談会と抱き合わせて栄養士さんの話とか、赤ちゃん和妈妈の体操のようなものもくっつけていきたいと今検討中です。

あと、新しいニュースなのですけれども、赤ちゃん和妈妈のためのコンサートに参加された方がもう卒業されまして、大きくなりました。12月の私たちの普通のクリスマスコンサートに初デビューしますというお声がありましたので、その卒業した赤ちゃん、幼稚園などにいったお子さんに向けてのコンサートを企画していきたいと思っております。

その予定としましては、8月18日に音楽で元気いっぱいというマリмбаのコンサートです。先ほど審査員の方々にはチラシをまわしていただきました。これが、卒業された赤ちゃん和妈妈に向けての新しい企画で、続けていきたいと思っております。

あと今年は9月の2日と12月の2日に赤ちゃん和妈妈のためのコンサートを行っていきます。

これはコンサートの様子です。左がクリスマスコンサートで、右が3月。これは少し頑張って踊りなんかを入れたのですけれども。少し身振り手振りを入れながらやりましたらとても好評でした。

では最後ですけれども、私たちのこの取り組みが赤ちゃん和育児に関わる方の楽しみになることを願っています。そして、子育て支援の一環になる活動をこれからも継続していきたいと思っております。

以上です。ありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしく願いいたします。

○山田委員長

では委員からの質問コメントありましたらお願いいたします。

○原田副委員長

報告ありがとうございました。

とても興味深い取り組みだと思いますし、子育てをしている世帯にとってはとても重要なイベントだと理解しました。

報告書を拝見すると、常時下準備で参加しているメンバーが4人、5人くらいいると思うのですが、準備される方も演奏者の方なのでしょうか。演奏される方が自分たちで準備されているのですか。

○湘南 Liebe

演奏している者も楽曲を選んだりというのには参加しています。

他のことは、スタッフにお願いしたりとかボランティアで手伝っていただいております。

○原田副委員長

そうすると、例えばコンサートに来ていただいたお客さんで、子どもが大きくなったときに呼びかけて、スタッフとして来てもらうという可能性についてどう感じますか。

○湘南 Liebe

なかなか厳しいのではないのでしょうか。やはり自分のお子様がまだこれから育つ段階ですので、手伝っていただけるとなったらお子様が育った後、高校生とか大学生とかになって一段落したお母様で、このような活動に興味があって参加していただければいいのでしょうか。そこにお声掛けする手段がないですね。

○原田副委員長

何か連絡取れるような仕掛けがあるといいのですが難しいですかね。

○湘南 Liebe

難しいと思います。メールも最初にいただいたメールアドレスも2、3年経つと使われていなくなるので。10年くらい経ってしまうと全く皆無だと思います。

○原田副委員長

もうひとつ、もともと額が少ないので、誤差の範囲かもしれませんが、会費が当初と比べて、比率でいうと6分の1くらいになっていますがこれは何か理由があるのでしょうか。

○湘南 Liebe

事業収入が思ったよりすごく多かったのでその部分をそんなに使わないで済んだということで解釈していただければと思います。その使わなかった分の会費は次の時に使うとさせていただいておりますので、この事業に充てませんでした。

○原田副委員長

わかりました。ありがとうございます。

○山田委員長

他にはいかがでしょうか。

○雫石委員

お母さんと赤ちゃんといいますか、幼児との取り組みというのは、13地区のまちから協議会の中に各地区の社会福祉協議会がありまして、そこでの事業として、小和田であれば、ぼかぼかを、毎月1回社協の人間と、民児協にも手伝ってもらって開催しています。他の地区でも同じような取組をやっていると思うのですが、その辺との関わり合いはどうなのでしょう。

○湘南 Liebe

コロナになる前は、やはりそういうところからお声掛けをいただきまして、そういう場所で、同じような内容を提供してきましたけれど、コロナ禍になってから一切。

多分今はもう始まったのかもしれないのですが、去年は多分やってなかったのではないかと思います。

特にピアノは飛沫しないのですね。歌とか、吹く楽器とかはやっぱ飛沫するので、そこが少し敬遠されているのかなと思います。これから収まって、少しでも歌うこととかが大々的にできるようになれば、またそういうところからお声がけをいただければ私たちはそこでもやりますし、こちらからもお声掛けをさせていただきたいと思っております。

○山田委員長

ありがとうございます。続いていかがでしょう。

○坂田委員

赤ちゃんとママのコンサートでは今回は、子どもから大人までということなの



で、本当に閉塞感いっぱいのこのコロナ禍の中でこういうコンサートが、まして安価で身近で参加できるという機会を作っていただくということは非常に大事なことだと思って拝見しておりました。

ぜひ今後も継続していただきたいと、本当に願っているのですけれども、やはり運営していくための資金調達というのが非常に大変になってくると思うのですが、今後、こういうことをしていきたいとか、いわゆる収入の部分をどう考えているのか伺ってもよろしいでしょうか。

#### ○湘南 Liebe

私達湘南 Liebe は社会奉仕をしていく音楽団体ですので、そこでお金を増やしていくのがなかなか厳しいです。演奏者にも交通費しか払っておりませんので、やはりコンサート収入をうまくまわして継続していくというところです。

#### ○坂田委員

コンサート会場で少しでもいいからお気持ちをくださいなど、少しでも継続ができるような資金調達というのをも併せて考えていただけるといいのかなと。私の友人にもコンサートをやっている団体がいくつかあるのですけれども、やはり資金調達が本当に厳しいと思っているということなので、関心のある人は寄付をしてくださる方も増えているようですので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

#### ○山田委員長

それでは時間になりましたので質疑応答とさせていただきます。ありがとうございました。

#### ○司会

ありがとうございました。

それではこれより総括質疑に移ります。総括質疑につきましては、市民活動のさらなる発展などを目的に、委員の皆さま、団体の皆さま、傍聴の方々に意見交換をしていただくものとなっております。

Zoomでご覧になっている方におかれましても QA 機能でコメントいただければ、時間の都合もあるのですけれども、可能な範囲でご紹介をさせていただければと思います。

総括質疑につきましては 12 時 25 分までという予定でしたが、終了時刻が多少延びるかもしれませんがご協力いただければ幸いです。

それでは、総括質疑の進行につきましては山田委員長にお願いいたします。

○山田委員長

皆さんご報告ありがとうございました。

今からの総括質疑ということですが、ふらっと南湖の松本さんから発言予約が先ほど入っておりましたので、まず松本さんのご発言を伺いたいと思います。

○ふらっと南湖

先ほどのスタンドアップパドルボートの活動、その前の年からお聞きしていて気になっていたのですけれども、児童養護施設の子どもたちと会うと本当に経験が不足してしまっていて、そういう子どもたちにお声掛けをしていただいて、少し社会とか、市民の人の普通の暮らしってものを垣間見られる、垣間見るだけでは本当はいけないのですけれども、まずきっかけとして少しつなげてあげたいというのが少し希望なのですが何か手だてはありますでしょうか。

○特定非営利活動法人 SUPU スタンドアップパドルボートユニオン

昨年、実はそういう方が2名くらいいらっしゃって、少しだけお話ししたのですが、幼稚園の園長をされている方が1名と、あとは養護施設で働いている方が1名、お手伝いに来ていただいて、施設に入っている方が2名いらっしゃいました。

そういう方に多分情報がなかなか回ってなくて、普通の小中学校さんにしかやっていなかったのです。今年に関しては、また別途ご連絡させていただいて、その方たちが参加されるのであれば、そういった体制で臨みたいと思っています。どういってお子さんでないといけないというのは何もないので、ぜひお越しいただければと思います。

○ふらっと南湖

まず関わっているところに声掛けをさせていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

あと、BENIRINGOさんも気になったので声をかけたのですけれども、やはり若い人たちなのですよね、児童養護施設というのは。

特にBENIRINGOさんたち若いので、親しみやすさというのが全然違うのと、施設が3つあるので、少し関心を持っていただいて、児童養護施設と一緒に出かけるとか、今ボランティアで入っているところが、子どもの園さんなので、そういうところに入って一緒に外かけて、子どもと遊ぶだけなのですけれどもそういうボランティアから少し関心を持っていただければ嬉しいなど。

○BENIRINGO

ありがとうございます。

私たちもすごく遊ぶことが大好きなので、何かよかったらお邪魔させていただいたりとか、または河口で掃除もしているのですけれど、終わった後に少し海で遊ぶとか、嫌がってしまう方もいらっしゃると思うので、あまり無理ない程度に、私達も関わらせていただけたらと思います。

○山田委員長

ありがとうございます。

まず1点目の話題としては、横の連携、ここに来場してくださっている皆さんの繋がりを増やしたいというご意見でした。

他の団体の皆さんからも、お感じになったことがありましたら、ぜひご発言ください。或いは、ネットワークしませんかというお誘いをさせていただくのもよろしいと思います。他にいかがでしょうか。

○多様性野菜活用支援協会

例えばSUPUさんの報告書を読ませていただいたのですが、お父さんと参加したい、親子で参加したい、あとは個人でも、様々なパターンがあると感じました。

昨年、BENIRINGOさんと連携したかったのですがお互い忙しくてなかなか連携するチャンスがなかったのですね。

活動もちゃんと理解していなくて、今日改めて冊子を作ったりWEBをやったりということで、その辺すごい取り組んでいらっしゃるのも分かったので、なにか連携できたらと。

そこで一つ思ったのは、せっかく茅ヶ崎ライフという茅ヶ崎に移住するための本みたいのがありますよね。

あれに夏休みで言えば、例えば、SUPの教室があったり、スポーツだけではなくて文化的な事業もやっていると、コンサートもあったり、うちの料理教室、親子でやるのもありますというのを、プラットフォーム上に出してもらいたいな、別冊にできないとは思うのですが、ホームページでもいいのですが、茅ヶ崎の場合移住したら夏になると、子どもが参加できるイベントは、文化もあるというな感じでやったらどうかと。

多分皆さんやっているものも全部多分そういう形で、最後に、赤ちゃんとお母さんだけではなくて、全世代型にしてやるようにしたらどうかと思います。

以上です。

○山田委員長

ということで、横の連携が広がれば、さらに参加者集めにも様々な利点、好機が

生まれてくるのではないかという発言でした。ありがとうございます。

他にいかがでしょう。

団体の皆さま以外にも、フロアでご参加くださっている方、WEB 上で繋がってくださっている方も書き込んでくださればということでしたので、どんどんご発言いただければと思います。

#### ○BENIRINGO

私たち BENIRINGO の活動は、情報発信というのにこだわっておりますが、茅ヶ崎市に皆さまのような様々な活動されている方がいらっしゃっていて、WEB の方で情報発信をしていきたいと思っているのですが、少し忙しいというのもあって、あまり私たちもどんどんと活発に情報発信をできているわけではないのですが、これから皆さんの活動も、もしよろしければ、サイトの方で、茅ヶ崎の皆さんの活動、思いとか、そういう取り組みを発信していきたいと思っていますので、もしよろしければ、取材ではないですが、活動のことをお伺いさせていただいたり、あとは WEB を書くことが得意な方とか周りにいらっしゃったら教えていただけたらとても嬉しいです。

#### ○山田委員長

後半の WEB のところ、何かご経験上、このようにしたらいいのではないかとか、自分の団体にはこういう人がいるなど、そのような情報交換できればと思いますが、いかがですか。WEB にかなり取り組まれている、活用されているという報告も多かったのですが、そこでのご経験などを披露していただければと思いますがいかがでしょうか。

#### ○多様性野菜活用支援協会

WEB は今まさに本業で取り組んでいます。外国人が日本にやってくるインバウンド事業のウェブやっています。

今 PDF にしても非常に重いので画面が動かないのです。Wi-Fi 環境が悪い日本とか、他の国でも動かなくて、そうすると 3 秒で抜けるのですよ。

だから最初のデータをどうやって作るかというのをやると、あと紙の問題があったのではないですか。今もうデジタルデータが主流になっているので、そちらで QR コードを出して、逆にそのデジタルができない世代のために、QR コードを当てるだけで出るというものを広げたほうがいいと思います。簡単にして、どの世代も使えるような感じで発信されて、デジタルデータに落として、デジタルパンフレットした方が絶対にいい。

もう今本当に 3 ヶ月単位で進化しているので、もう着いていくことがいっぱい

っばいですよ。で、古いやつは本当に動かなくて、誰も見なくなって検索しなくなる。

いかに軽くいかに簡単に、そして Wi-Fi がすごく感度が悪いところでも見られるようにしたらいいと思います。

#### ○山田委員長

他にも様々な話題があるかと思いますが、感想でも結構ですし、ご意見、或いはご要望でもよろしいかと思います。

何かありましたら、ぜひこの場でご発言いただきたく思います。

#### ○傍聴

素晴らしい報告を聞かせていただいてありがとうございました。

一つを知りたいと思うことがありまして、多様性野菜活用支援協会さんに教えていただきたいのですけれども。

いろいろ振り返って、場所の確保が難しかった或いは食材の仕入れ、その季節にちょうど良い野菜がなかなか手に入れられなかったこと、それから調味料とか、場所にすごく苦労されたっておっしゃって、ああなるほどなと思ったのですけれども、ただ少し残念に思ったのは、参加者が極端に少なかったと思うのですね。どのような形で、どのような手段で、どこにその広報されたのでしょうかというところがありまして、4、5人であそこを使うことは本当にもったいと思うのですけれども、これからどのような工夫をして、人と繋がっていかうと思ってるか、それから、毎週土曜日にやっている朝市の農家さんは、結構気のいい人たちが多くので、もう少し関係性が繋がると、うみかぜテラスでやったりするときには、調達もしていただけるのかなと思うので、その辺のところを教えていただけると嬉しいです。

#### ○多様性野菜活用支援協会

まさに募集するというのがやっぱり上手くできなかった。時間がなかったこともあるのですが、SNS からすべての媒体を全く使えなかったというのは事実です。

今、仕事でこんなにやっているのに、ボランティアではできないのかという部分があるのですが、市の広報紙に出すとか、あとは、各地区の施設に貼っていただくとか、そういうところのポスターまで作ったのですよ。

ただ配布するタイミングを逸したこともあって、1度図書館に貼りましたが、しかし、誰も反応がなかったです。

なので、いわゆる営業戦略なのですけれども、どうやったら刺さるのかというこ

とをもう少し研究しなくてはいけないなとすごく思ったことは事実です。

今おっしゃっている通り、うみかぜテラスは非常に良い施設です。だからそこを上手く活用していきたいと考えていますが、もう1つの質問はどんな内容でしたでしょうか。

#### ○傍聴

少し補足させていただくと、私もあるイベントをやるために、まち中の商店さんに寄付をくださいって言いに行ったことがありました。

そうしましたら、普段はどこで買い物しているのって、イオンや、ラスカで買い物をして、寄付が欲しいときだけ来るんじゃないかねえよと言われたことがありました。普段から買い物したりとか、まちの様々な人と繋がりを持って顔なじみになって、それで応援しようって思うものだよって言われて、ああなるほどなど。都合のいい時だけ言ってまずいなと思ったのです。

これは私の失敗なのですけれども、この活動を広めていただくのでしたら、様々な方との繋がりを、日頃から地味に持っていかれると、もっともっと知っていただける活動に発展するのかなと、私の失敗談を紹介させていただきました。

#### ○多様性野菜活用支援協会

おっしゃる通りで、本当に地味に営業するではないですけど、都合のいい時だけ訪問するのは駄目だと思うのですよ。

地味に、例えばそれが茅ヶ崎の農家さんだったら、まず毎週は少し無理としても、2週に1回などタイミングが持てるのだったら、まあいいかなと。

今お答えいただいた通り、実はこの農家さんに会うときに、農業水産課さんに最初に相談したのですよ。そうしましたら、あそこの場所に行くのがいいって言って、実はそこに入る条件が非常に厳しいってこともわかったのですね。だからそこに入っていない農家さんもあるから、その辺うまくやらないと、巻き込まれる可能性もあるとも言われて、一度名刺を渡して農業水産課さんが、コンタクトしてくれたのですよ。でも、とてもそっけない回答でした。そういうふうな実態もあるので、なんというか、嫌だという感じだったのですよ。

それを思ったら、本当に日々かばん持って営業する感じで土曜日必ず同じ農家さんに行くくらいのつもりで営業やらない限り無理ですねと思いました。

だからそうなっちゃうと、毎週会っている鎌倉野菜さんの方が話しやすかったのは事実で、値段的な問題も全く安いので、本当にそこまで茅ヶ崎の農家さんをお願いして、イエスと言ってくれるか。

でも今年、毎週土曜日、月2回同じ農家さんを狙って個人的に営業してみようと思います。ありがとうございます。

○山田委員長

最後に、もう少し発表いただけると思いますがいかがですか。

時間のご都合もあるかと思しますので、もしいらっしゃらなければこのあたりで総括質疑の時間は終了とさせていただこうと思います。今、最後の部分でもご指摘がありました通り、せっかくこういった自治体の制度ですから、自治体の職員の方にたくさん協力をいただくというのも、方法の一つだということでした。

それぞれ団体の皆さまの思いと、それから横に繋がりたいと感じている気持ちを聞かせていただきました。貴重な意見交換ではなかったかと思えます。ご協力ありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

ただいまの総括質疑をもちまして本日のプログラムはすべて終了となります。

それでは改めまして、山田委員長より閉会のご挨拶をいただきたいと思えます。

○山田委員長

それでは長時間に渡りまして、皆さまご協力ありがとうございました。

報告、本当に素晴らしいすてきなものばかりで、勉強になることも多くありました。

今日のポイントは大きくまとめると4つくらいあったように感じます。

成果報告の場ですので、どのような成果があったのかということで、その観点で聞かせていただきました。

まず、1番目に、良いことの蓄積と発信が、皆さん当然なさるのですけれども、これが団体の1年間の活動を通じて、団体の活力とかエネルギーに繋がるということがよくわかりました。

とりわけ皆さんご自身のやる気、それから参加をしてくださっている方に、そういったやる気の連鎖が見られるというところは、市民活動の魅力でもあり、かつ、このげんき基金補助事業の特徴でもあるということを改めて感じました。

2点目に、課題の乗り越え方についての様々なご提案や、それからまだまだ乗り越えてないのだけれども、課題が見つかりましたというご報告もありました。

こちらについては、団体の皆さま或いは組織の成長や発展に繋がるというところで、うまく課題を解決案として転換され、それが日々の活動に繋がり、それが組織的な発展に繋がっているといったところをたくさん教えていただきました。

もちろんこの発展や成長とは、組織や団体が大きくなることだけを意味しているわけではありませんでした。活動の実施による地道な力がそれぞれ蓄えられてい

く、備わっていくといったことを、実感されているというところも、大変素晴らしい部分ではなかったと思います。

それから3点目に、休み時間に皆さんが意見交換をなさっているところもとても面白い特徴でした。様々な方とつき合ったり、話し合ったりしている雰囲気があったのは、これはこの会の意味としても、大変重要ではなかったかと思います。こうした成果報告を聞き合うことは時間が長いので、少し面倒だな、大変だなと思う部分もあるかもしれませんが、これは他の方の経験を相互に生かし合っていくという意味もあります。そして、総括質疑では、他団体に向けてこのようなことはありませんか、こう繋がりませんかといった、質問や情報交換に繋がったところも、すてきだと感じました。

それから最後に4点目ですけれども、市民活動への参加というのは多面的に様々な問題が依然としてあるというところを教えてくださいました。

特に参加という意味では、3つの種類の参加が同じ参加者とか参加ということでも語られていました。

1つ目は水平的な参加で、イベントや催しをやる際に、そこに来場してくださる方の参加です。それからもう一つが団体の拡充のために、メンバーを増やす意味での参加です。これら2つが水平的な参加という意味で語られていました。もう一つ、3番目の参加が、垂直的な参加の展開でしたね。

これは、団体の中での世代交代であるとか、次の自分の思いを受け継いでいく人をどのように巻き込み育てていくのかといったところです。うまくいっている部分もあれば、ご苦労されているといったところもあった、そのような感じを得ました。

私たちは委員会の活動を通じて、茅ヶ崎市にそうしたところをきちんと提案していく役割も担っております。今後、この委員会の議論の中で、或いは今日の評価会議の中で、こうしたところ、改めて担当課の皆さんと協議し、情報交換をしながら、より良いげんき基金の活用、制度の運用に向けて意見交換をして参りたいと思います。

その意味では本当にいろいろと教えてくださいましたことに改めて感謝を申し上げます。今日はどうもありがとうございますありがとうございました。

## ○司会

以上をもちまして、令和4年度実施市民活動推進補助事業実施報告会を閉会いたします。皆さま、長時間にわたりご参加いただき、また発表にご協力いただきましてありがとうございました。